



2022年の『ユリシーズ』—スティーヴンズの読書会 第10回 さまよえる岩（第10挿話） 2021年2月21日（日）@オンライン

【読書会参加に当たってのお願い】

- ・ 13:00から13:25まではZoom操作の練習時間とします。13:30から開始します。
- ・ 画面のスクリーン・ショット撮影について
- ・ 第一部の録音・録画について
- ・ スライド中で柳瀬尚紀訳『ユリシーズ』（河出書房新社）を引用するにあたっては、「U-Y 挿話番号.ページ数」で表記します。「鼎訳」は丸谷才一らによる集英社訳を指します。

2022年の『ユリシーズ』 第10回 さまよえる岩 (第10挿話) 2021年2月21日 (日) @オンライン

- 13:00-13:30 準備：Zoomの練習・操作案内
- 13:30-13:40 ご挨拶：読書会に際してのお願い
- 13:40-14:50 第1部：主催者発表（小林・南谷・平繁）
- 14:50-15:05 休憩＋アンケート回答
- 15:05-16:05 第2部：グループディスカッション
- 16:05-16:20 休憩
- 16:30-17:20 第3部：フロアディスカッション
- 17:20-17:30 ご挨拶・第10回読書会について
- 17:40-19:00 懇親会＋Wandering Books

STEPHENS
WORKSHOP

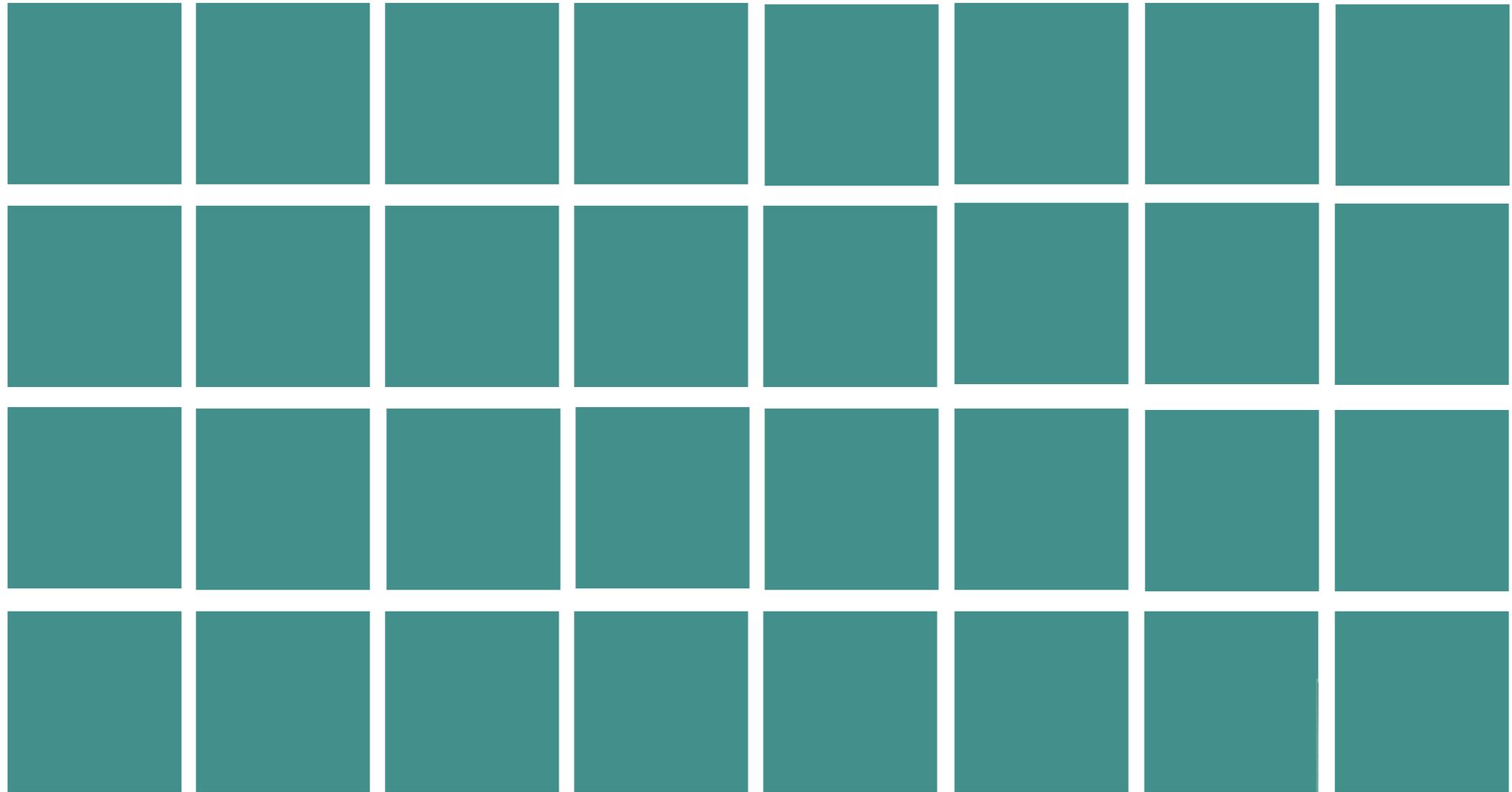


2022年の『ユリシーズ』—スティーヴンズの読書会 第9回 スキュレとカリュブディス (2020.12.26)

第1回 2019年6月16日	第4挿話 カリュプソー	Book II. Odyssey	initial style
第2回 2019年8月25日	第1挿話 テレマコス	Book I. Telemachia	initial style
第3回 2019年10月20日	第2挿話 ネストール	Book I. Telemachia	initial style
第4回 2019年12月22日	第3挿話 プロテウス	Book I. Telemachia	initial style
第5回 2020年2月9日	第5挿話 食蓮人たち	Book II. Odyssey	initial style
特別回 2020年4月26日	特別回 第1挿話～第5挿話	Book II. Odyssey	initial style
第6回 2020年6月28日	第6挿話 ハデス	Book II. Odyssey	initial style
第7回 2020年8月23日	第7挿話 アイオロス	Book II. Odyssey	initial style
第8回 2020年10月25日	第8挿話 ライストリュゴネス族	Book II. Odyssey	initial style
第9回 2020年12月6日	第9挿話 スキュレとカリュブディス	Book II. Odyssey	initial style
第10回 2021年2月21日	第10挿話 さまよう岩々	Book II. Odyssey	initial style
第11回 2021年4月25日	第11挿話 セイレーン	Book II. Odyssey	
第12回 2021年6月	第12挿話 キュクロプス	Book II. Odyssey	
第13回 2021年8月	第13挿話 ナウシカア	Book II. Odyssey	
第14回 2021年10月	第14挿話 太陽神の牛	Book II. Odyssey	
第15回 2021年12月	第15挿話 キルケ	Book III. Nostos	
第16回 2022年2月	第16挿話 エウマイオス	Book III. Nostos	
第17回 2022年4月	第17挿話 イタケ	Book III. Nostos	
第18回 2022年6月16日	第18挿話 ペネロペイア	Book III. Nostos	

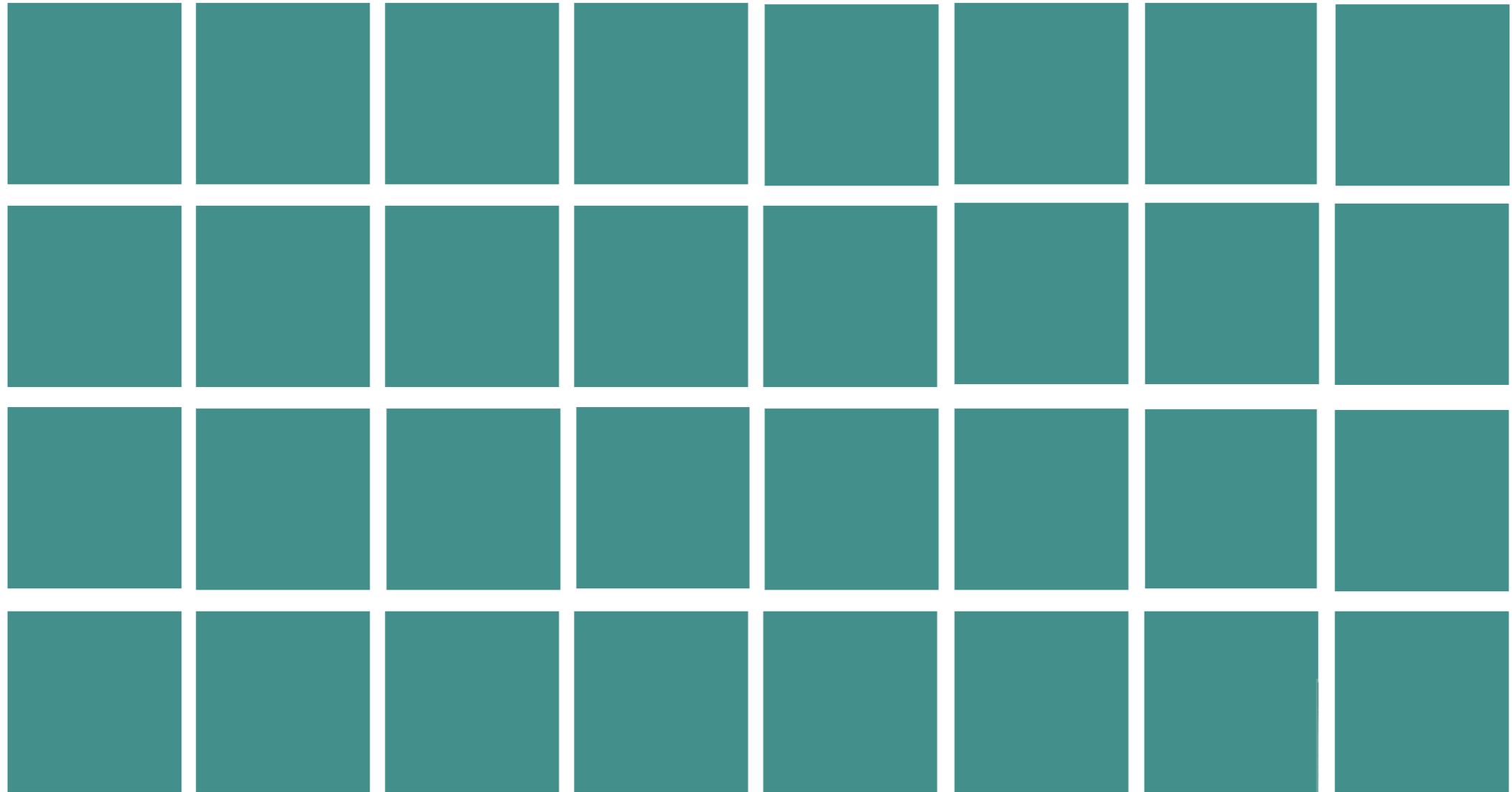


Episode 1: Telemachus



“ふんぞり返って、ふくらかなバック・マリガンが階段のてっぺんへ現れた。捧げ持つ石罅の泡立つ丸い器にのせて、手鏡とカミソリが十文字に…” (U-Y 1. 11)

Episode 2: Nestor



“—さあ、コクラン、なんという市が遣いを送った？” “—タレントウムです。”
“よろしい。それで？” “—戦争になりました。” “よろしい。どこで？” (U-Y 2. 49)

Episode 3: Proteus

海	波	砂	貝	風	浜	潮	浜
馬	犬	女	男	馬	鷗	鳩	神
目	耳	靴	足	口	齒	臍	洩
死	産	詩	韻	巴	触	汚	溺

“可視態の不可避の様式。少なくともそれ、それ以上ではないにしても、おれの目を通しての思考。万物の署名をおれはここで読み取る” (U-Y 3. 73)

Episode 4: Calypso

猫	肉	食	臓	糞	便	紙	読
牛	乳	血	環	尻	肥	秘	隠
朝	鐘	金	猶	緩	庭	夫	妻
陽	絵	会	魂	出	鍵	矢	閨

“リアポウルド・ブルーム氏は禽獣の臓物をうまがる男である。どろっとしたもつがらスープもいいし、こりこりする砂肝、詰め物をして焼いた心臓…” (U-Y 1. 11)

Episode 5: Lotus Eaters

郵	喪	花	茶	東	屍	温	浮
酔	香	水	植	歩	帽	光	沈
紙	聖	性	馬	猫	薬	歌	浴
式	棒	車	喫	煙	石	賭	体

“荷台車の連なるサー・ジョン・ロジャースン船寄せ通りをブルーム氏は肅々と歩いた。ウィンドウミル小路を過ぎ、リークス亜麻仁加工所、郵便電報局を過ぎる…” (U-Y 5. 127)

Episode 6: Hades

肉	血	骨	土	体	臓	心	爪
牛	馬	蹄	犬	鼠	蛆	花	草
屠	回	揺	埋	腐	解	交	流
列	樽	車	父	食	黒	帽	雨

“マーティン・カニンガムが、まず先に、シルクハットの頭をギッターと軋む馬車の中へ差し入れ、するりと乗り込んで席におさまった…” (U-Y 6. 155)

Episode 7: Aeolus

風	機	音	輪	山	詩	煙	教
電	話	止	転	塔	種	弁	学
肺	騒	馬	車	回	鍵	逆	空
心	血	鉄	樽	像	交	字	?

“ネルソン記念柱の前で路面電車は徐行し、待避線に入り、トロリーポールの移動をすませ、そして発車する。ブラックロック、キングズタウン、ドーキー行き…” (U-Y 7. 203)

Episode 8: Lestrygonians

食	吐	齒	臭	鼻	業	環	水
視	盲	口	痛	血	蠅	輪	流
飢	鷓	疫	牛	肉	交	唇	穴
触	臍	汚	屠	骨	想	時	門

“パイナップル氷砂糖、レモン棒飴、バター飴玉。粗目糖顔の娘がクリスチャン・ブラザーズの男にせっせとクリームボンボンを掬っている。小学校のお楽しみ会だろうか。ぽんぽんによくないよ。…” (U-Y 8. 261)

Episode 9: Scylla and Charybdis

門	談	光	魂	震	鷹	墜	巴
問	論	神	知	靈	鳧	S	己
聞	語	幕	戯	劇	父	子	牛
問	説	床	翁	狂	讐	志	遺

“慇懃に、場を和めるべく、篤震の図書館長が喉ふるわせた。

—それにウィルヘルム・マイスターのあの貴重な一節もあるわけだから。偉大な詩人が偉大な同胞詩人を論じている。逡巡する魂が、葛藤する疑念に引裂かれつつ、苦難の海に立ち向かう。” (U-Y 9. 315)

Episode 10: Wandering Rocks

督	行	合	輪	馬	錢	刻	父
列	多	対	回	鳥	弧	落	交
門	路	像	橋	瀉	窓	泥	海
扉	面	鏡	鍋	煮	乞	貧	貝

修道院長イエズス会士ジョン・コンミー師は、てかてかの懐中時計を内ポケットに戻しながら、司祭館の階段を下りた。三時五分前。アーティンまで歩いていくにはちょうどいい。ええ、あのこの名前は何といった？ ディグナム。そう。真にふさわしく義しきかな。

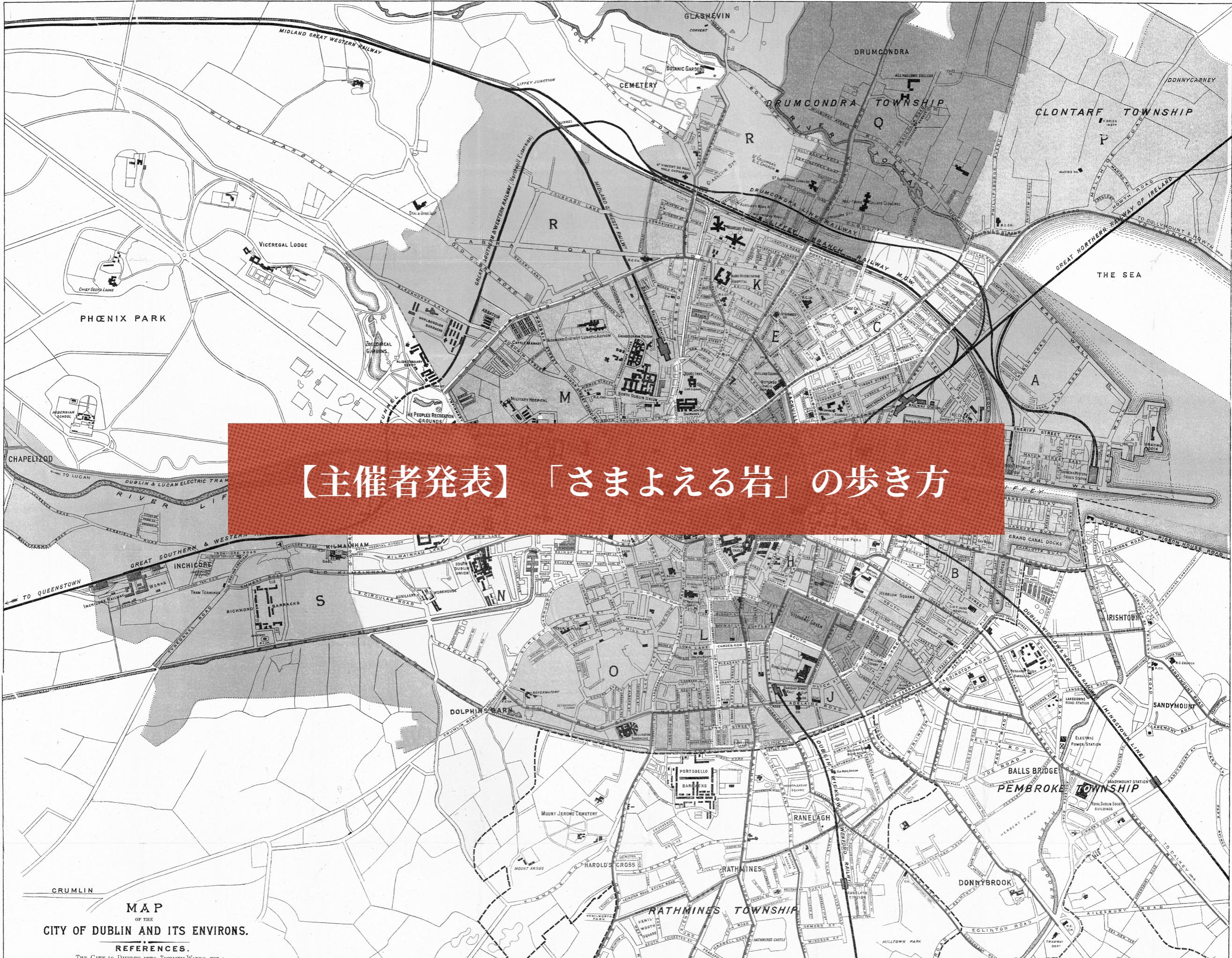
(U-Y 10. 373)

【主催者発表】「さまよえる岩」の歩き方

MAP OF THE CITY OF DUBLIN AND ITS ENVIRONS.

REFERENCES.

The City of Dublin and Town of Wicklow

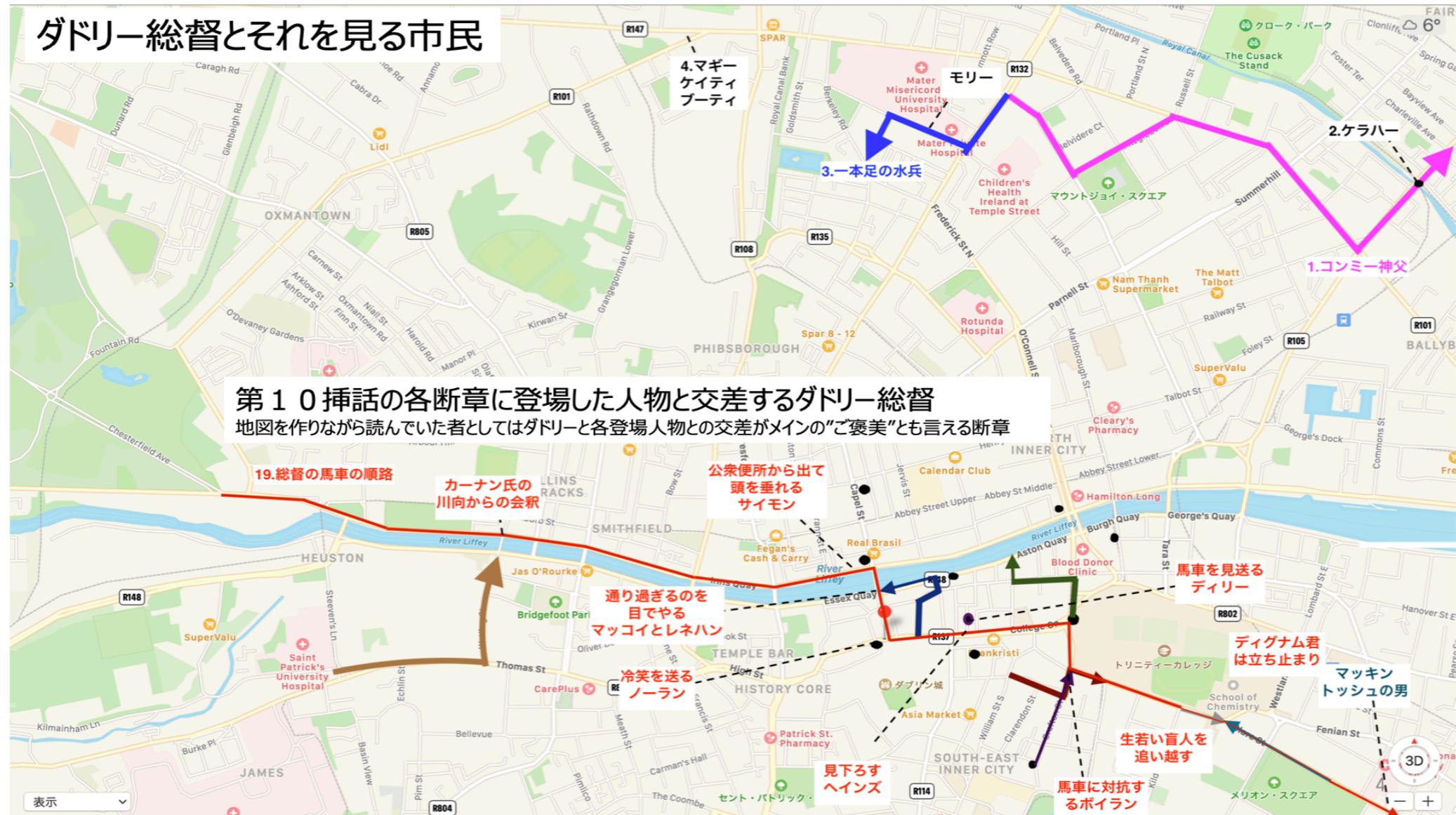


19世紀から20世紀初頭のダブリンを知るための資料案内

- ❖ Old Dublin Society
- ❖ “Dublin themes” *The National Archives of Ireland*
- ❖ Map Collections at UCD and on the Web: Historic Maps of Dublin
- ❖ The Survey Gazetteer of the British Isles, Topographical, Statistical and Commercial; compiled from the 1901 census and the latest official returns; with appendices and special maps (pdf)
- ❖ Irish Surname Maps ※1901年, 1911年の国勢調査にもとづいた名前・宗派・言語に関連する地図→Censusの元データは<http://www.census.nationalarchives.ie>を参照。
- ❖ Historic Maps of Dublin, 1900-1939 ※複数の地図のレイヤー重ねが可能。
- ❖ JoyceTools , *James Joyce’s Dublin: A Topographical Guide to the Dublin of Ulysses*(Thames and Hudson, 2004)の共著者Ian GunnとClive Hartによるウェブサイト。当時の地図や新聞、1904年版のThoms Directory がDL可。

参加者による資料提供

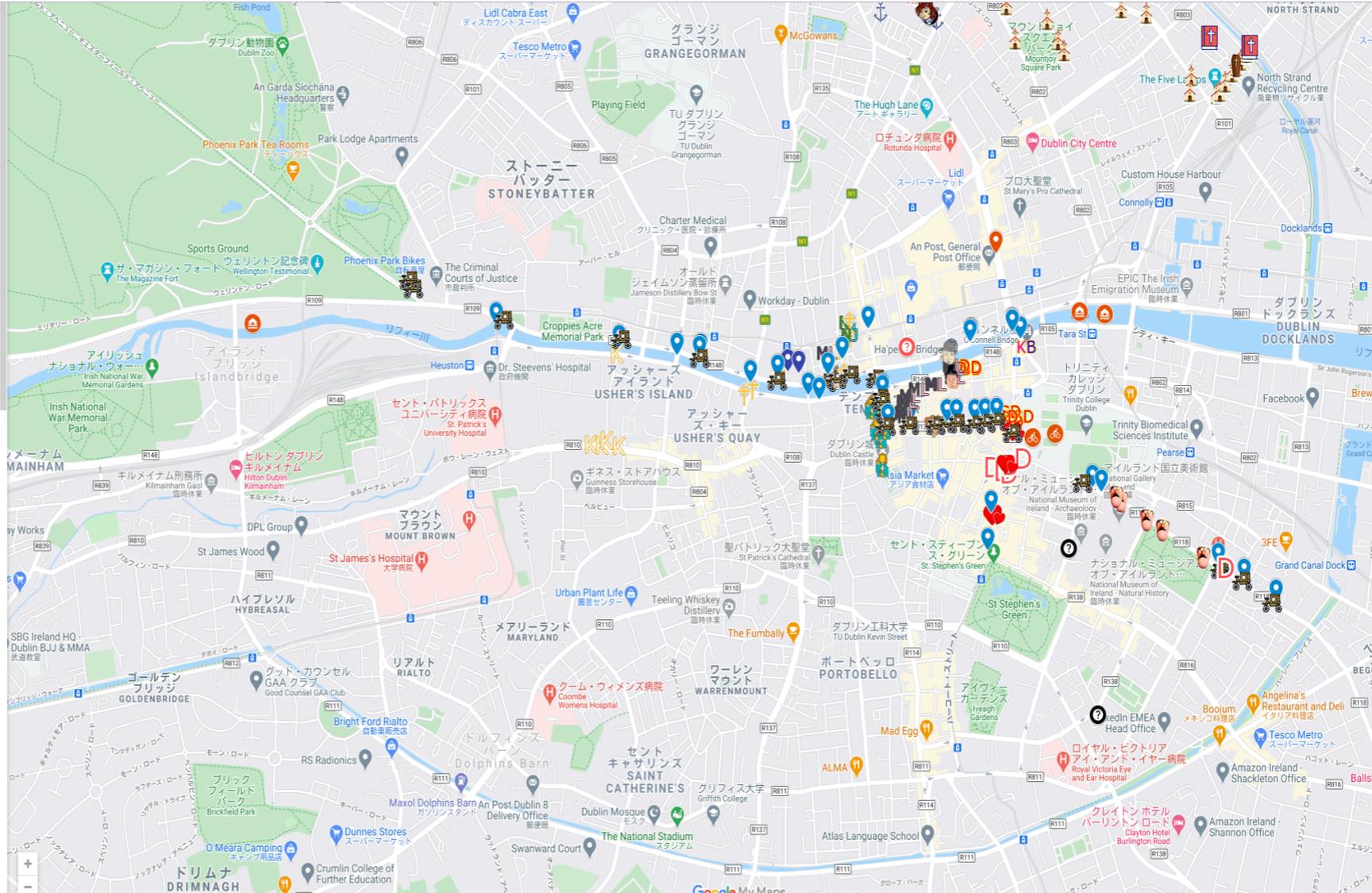
(1) 第10挿話メモ (nushiro) (スライド4)



参加者による資料提供

(2) ユリシーズマップ第10章 (三月うさぎさん)

- ✓ ジョン・コンミー神父
 - ①373 コンミースタート Convent of th...
 - ①373 コンミー&シービー夫人
 - ①375 コンミー&ライナム君 郵便ボス...
 - ①375 仮置き ダンス教師マギニ Digan...
 - ... 他 23 個
- ✓ コーニー・ケラハー&一本足の水夫
 - ②381 H.J.オニール郵便店
 - ②381 おおらかな白い腕から硬貨
 - ②★ブルームの家
 - ③382 マッコンル薬局の角?
 - ... 他 6 個
- ✓ ケイティ&ブーディ・デッドラス
 - KB ④383 仮置きデッドラス家
 - KB ④383 コンミー回想 (クロングウズ原)
 - ④384 従僕の鐘 ウィリアムズ・レーン
 - ④385 ティリー・デッドラス
 - ④385 ルーブライン橋 (Butt Bridge)
 - ④385 エリヤ東へ
- ✓ ボイラン
 - ⑤265-266 PM13:00
 - ⑤385 ボイラン ソートンの果物屋
 - ⑤386 ボイラン タンジア小路 (Tangie...)
 - ⑤HELY'S タンジア小路
 - ... 他 4 個
- ✓ スティーヴン
 - SD ⑥387 ゴールドスミス像 Oliver Golds...
 - SD ⑥387-388 カレッジ・グリーン
 - SD ⑥388 ハイランド兵士軍楽隊
 - ⑦13) 以下408以降のスティーヴン



参加者による第10挿話への反応

(2) ユリシーズマップ第10章 (三月うさぎさん)

- ジョン・コンミー神父
 - 📍 ①373 コンミースタート Convent of th...
 - 📍 ①373 コンミー&シーヒー夫人
 - 📍 ①375 コンミー&ライナム君 郵便ボス...
 - 📍 ①375 仮置き ダンス教師マギニ Digan...
 - ... 他 23 個

- コーニー・ケラハー&一本足の水夫
 - 📍 ②381 H.J.オニール郵便店
 - 📍 ②381 おおらかな白い腕から硬貨
 - 📍 ②★ブルームの家
 - 📍 ③382 マッコンル薬局の角?
 - ... 他 6 個

- ケイティ&ブーディ・デッドラス
 - 📍 KB ④383 仮置きデッドラス家
 - 📍 KB ④383 コンミー回想 (クロングウス原)
 - 📍 ④384 従僕の鐘 ウィリアムズ・レーン
 - 📍 ④385 ティリー・デッドラス
 - 📍 ④385 ループライン橋 (Butt Bridge)
 - 📍 ④385 エリヤ東へ

- ボイラン
 - 📍 ⑤265-266 PM13:00
 - 📍 ⑤385 ボイラン ソートンの果物屋
 - 📍 ⑤386 ボイラン タンジア小路 (Tangie...)
 - 📍 ⑤HELY'S タンジア小路
 - ... 他 4 個

- スティーヴン
 - 📍 SD ⑥387 ゴールドスミス像 Oliver Golds...
 - 📍 SD ⑥387-388 カレッジ・グリーン
 - 📍 SD ⑥388 ハイランド兵士軍楽隊
 - 📍 ⑬) 以下408以降のスティーヴン

参加者による第10挿話への反応

(2) yoshino maiさん



yoshino mai
@yoshino314



これ、一人称でも二人称でも三人称(全知の視点)の語りでもない部分が結構あるんじゃないか...? アレンジャー...?

午後4:30 · 2021年2月19日 · Twitter for Android

参加者による第10挿話への反応

(2) yoshino maiさん



yoshino mai
@yoshino314

これ、一人称でも二人称でも三人称(全知の視点)の語りでもない部分が結構あるんじゃないか...? アレンジャー...?

午後4:30 · 2021年2月19日 · Twitter for Android

More recently, James McMichael, in an argument extending the concept of “The Arranger” to embrace a figure he christens, ‘Jamesy,’ has suggested that as the most panoramic of Jamesy’s cityscapes, chapter 10 discloses that he knows with certainty what every character in Dublin is doing, saying, and thinking between the hours of three and four in the afternoon. (David Pierce, “The Reading Matter of Wandering Books”, p. 81)

参加者による第10挿話への反応

(2) 三月うさぎさん



三月うさぎ (兄)
@march_hare_bro

...

まえにもつぶやいたけど、デッダラスさんちはどこかって明示されてるんですけど？ と思い『肖像』をパラパラめくってたら、読める！読めるぞ！というか、前はいったい何を読んでいたんだってくらい細かいところが見えてきたわー。でもデッダラスさんちはわからん。(注も検索もしない！)

午後9:03 · 2021年2月18日 · Twitter for Android

参加者による第10挿話への反応

(2) 三月うさぎさん



三月うさぎ (兄)
@march_hare_bro

...

まえにもつぶやいたけど、デッダラスさんちはどこかって明示されてるんですけど？ と思い『肖像』をパラパラめくってたらず、読める！読めるぞ！っていうか、前はいったい何を読んでいたんだってくらい細かいところが見えてきたわー。でもデッダラスさんちはわからん。(注も検索もしない！)

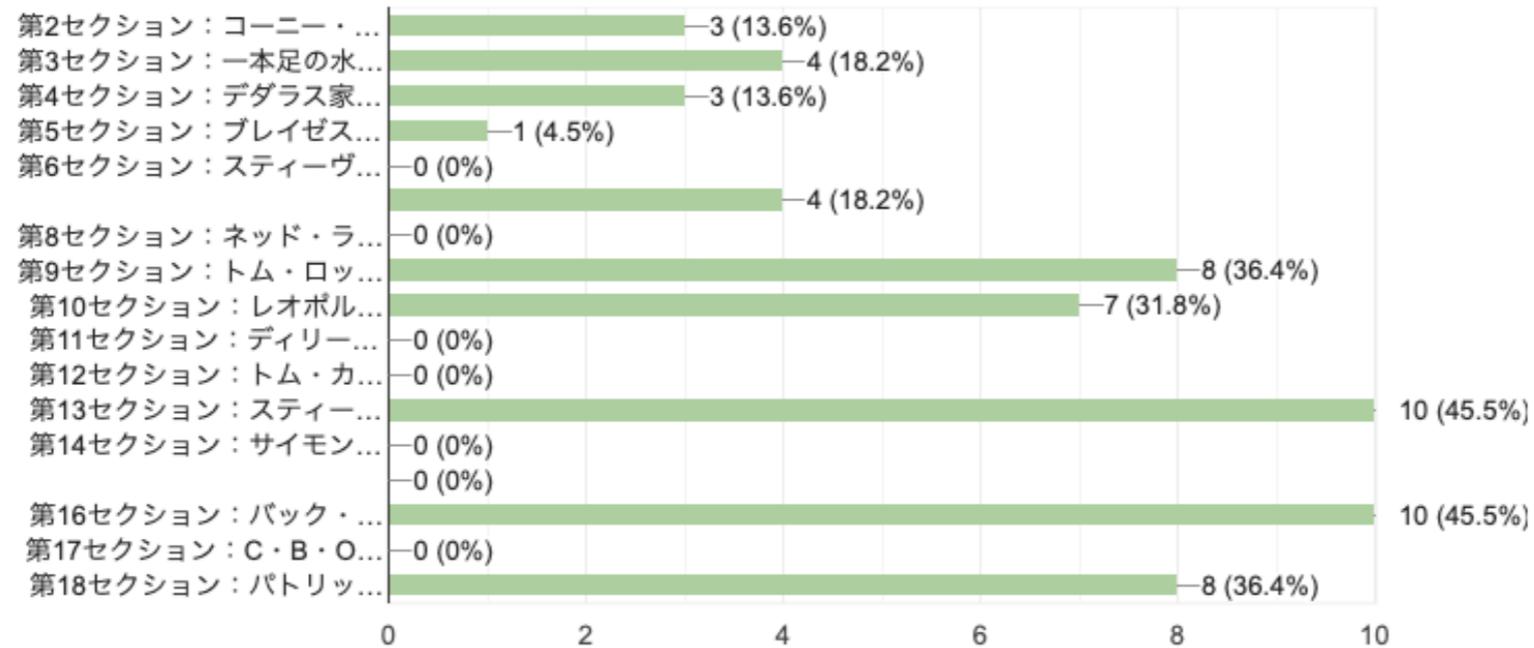
午後9:03 · 2021年2月18日 · Twitter for Android

—The other indeterminate location is of the Dedaluses: “Katey and Boody Dedalus shoved in the door of the closest steaming kitchen” (U10.258-59). There is no clue as to the kitchen’s site except that the Dedalus sisters were seen, in the previous section but some considerable time before, in Eccles street (U10.229-33). Again Clive Hart provides a plausible location with an asterisk of inference: “*7 St Peter’s Terrace, Cabra, the address of the Joyce family in June, 1904. Katey and Boody Dedalus have walked home from school via Eccles Street... Berkeley Road, North Circular road, Cabra Road” (TG 28). (Fritz Senn, “On Not Finding Places,” JJQ, Vol. 29, No. 2 (Winter, 1992), pp. 397-401)

参加者による第10挿話への反応

第②セクションから第⑱セクションの中から、最も面白く読んだセクションを3つ教えて下さい。(ディスカッション用の材料としますので、必ず3つ以内に押さえてください。)

22件の回答



参加者による第10挿話への反応

ダブリンに行きたい

それぞれの登場人物の足跡をたどるのが楽しかった。

繰り返し描かれるピラヤポスター、何かに遅れてしまうモチーフの繰り返し印象に残りました。

たくさんの人物が出てきて、実在する固有名もたくさん出て来るので、記憶力とダブリンの土地勘があったらなお読むのは最高だろうなと思いました。地元を舞台にしたすぐれた小説を読みたいくなりました。
一つ一つのセクション自体は読みやすいが、全体を通じて意味を見出すのは難しい

ありそうでない想像パズル

ウルフの『ダロウェイ夫人』を思い出しました。『~夫人』の場合は出会う人や物を通じて視点が変わるのに対し、10章はぶつ切りになっていますが、全体として、さまざまな有名無名の人物が都市のなかでからみ合っている、ゆるく、流動的で、無定形な共同体?のようなものを感じました。
ここがユリシーズにおけるセントラル・エリア。

第9挿話より、イメージしやすく感じた。

各セクション短い挿話で読み易い。同じ時間的空間で行き違う関係のない人々を描く手法に関心

一つ一つのセクション自体は読みやすいが、全体を通じて意味を見出すのは難しい

第1挿話などに比べると大変読みやすく感じました。様々な人物スケッチがさらさらと続くのがとても心地よく、今までで一番好きな挿話となりました。最後の第18セクションで次々と登場人物が現れる様子には震えるほど感動しました。
ビートルズのPenny Laneを思い出す。楽しいが、地図と人形がないとしんどい。

群像劇のよう。各章のリンクを追いかけるのが楽しかった。

人が多い、人はどこかにいる。

不思議でよくわからないけど、ついつい読んでいってしまうという印象でした。

笑

参照が網の目のよう

地図を広げながら読むと、動き回る登場人物が見えてくるような気がした。ほぼ一カ所で展開した第9挿話からの切り替えが鮮やかで、巧みに編集された映画を観ているかのよう。空間の扱い方、モンタージュのような技法も映画っぽい。群像劇なのでグランドホテル形式という言葉が頭に浮かんだが、あの映画は1932年だなあと考えた。

面白かったです。様々な階層や立場の人間が描かれるところ。ブリューゲルの絵を思い出しました。

個々の登場人物の動線を追う面白さと同時に、一都市Dublinの「背景」を超える存在を実感できる。

それまでの章とも違う、これまで見たことのない文学表現でした。

MAP

OF THE

CITY OF DUBLIN AND ITS ENVIRONS.

REFERENCES.

The City is bounded by the River Liffey.

RATHMINES TOWNSHIP

NEWLWORTH PARK
NEWLWORTH QUARE
SOUTH TEECKETE AV.
RATHMINES CASTLE

HILLTOWN PARK

EGLINTON ROAD
ALLESBURY ROAD

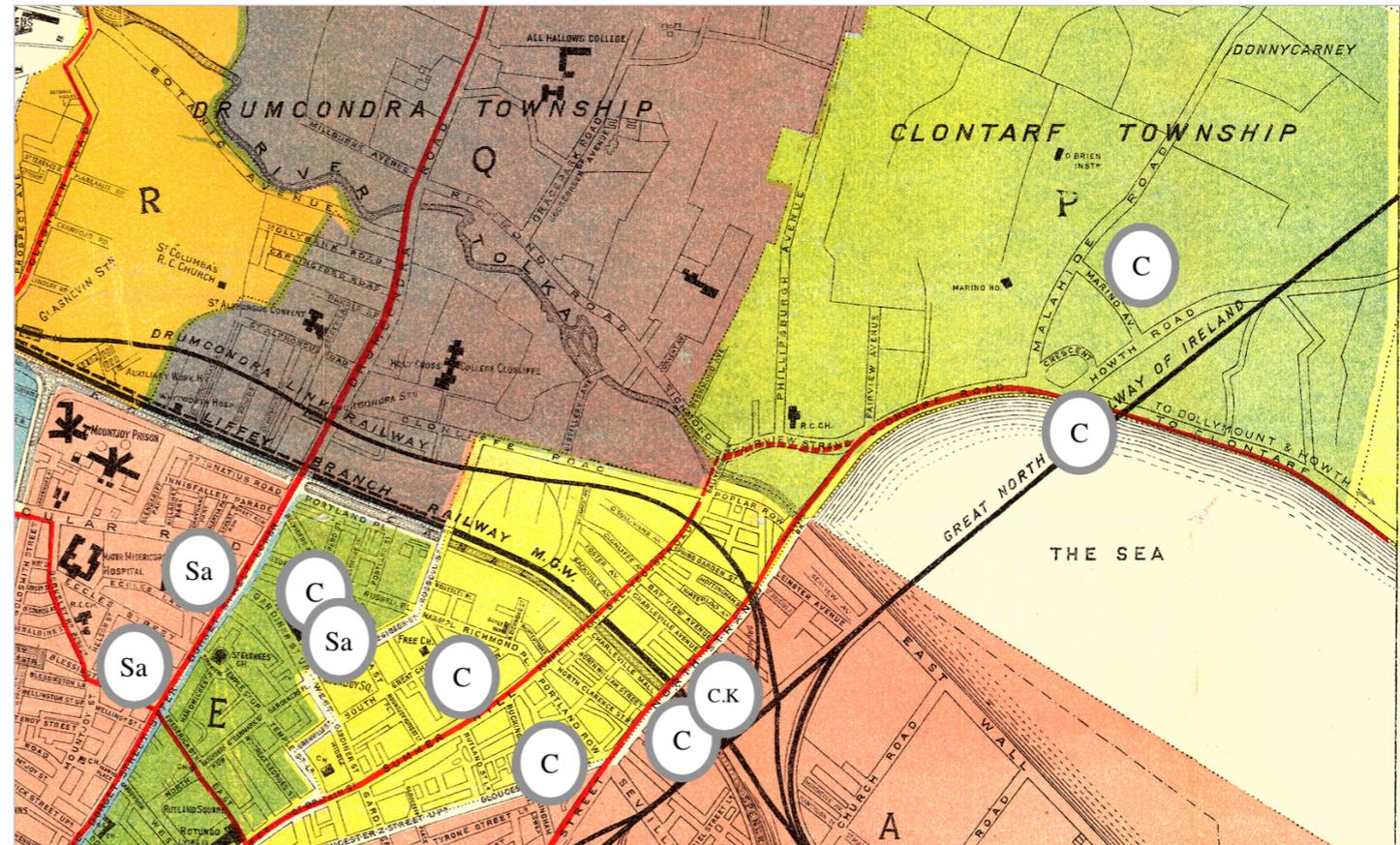
TRAMWAY DEP.

SEA-BURN ST.

O'CALLAGHAN ROAD

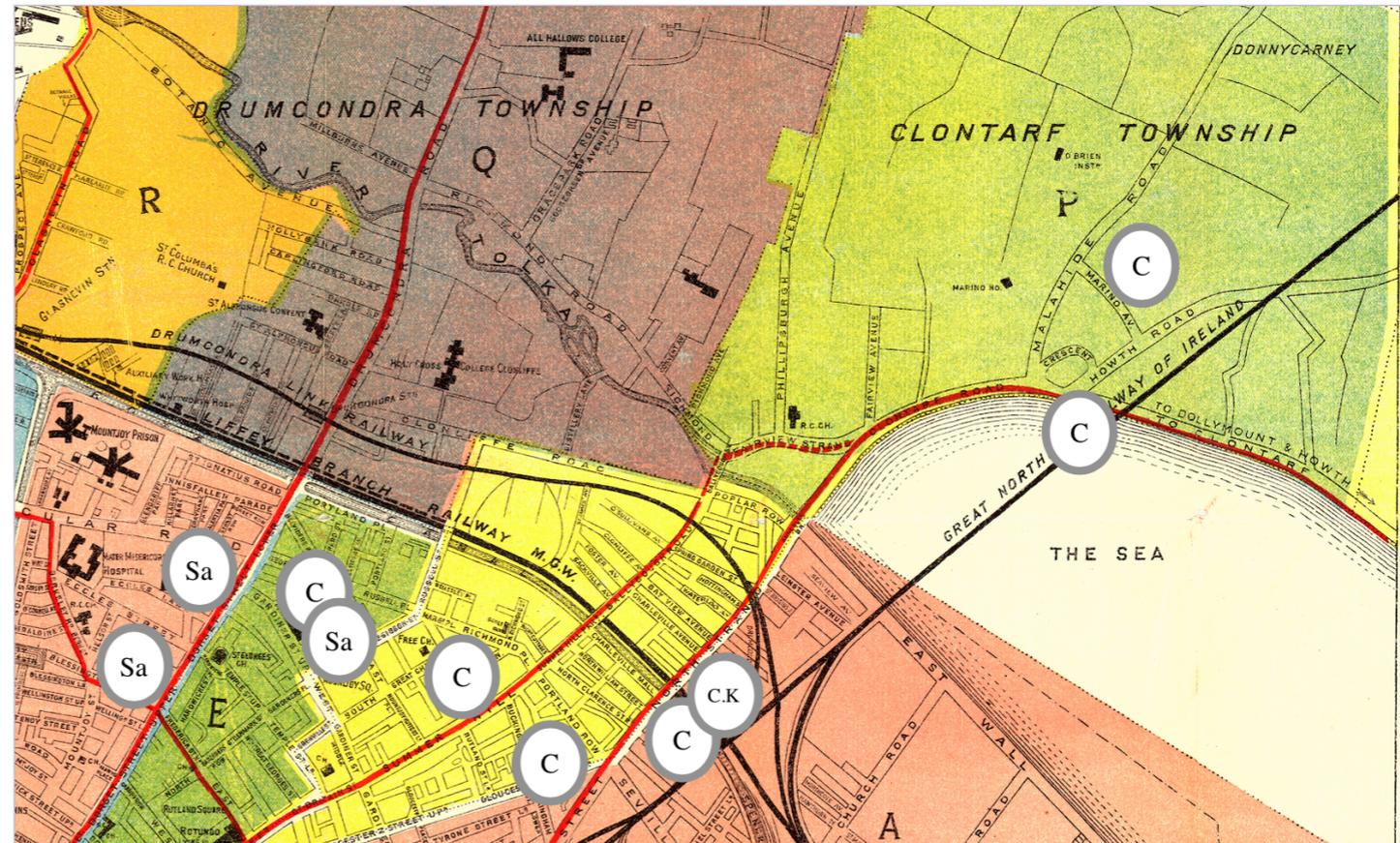
「さまよえる岩」の登場人物案内：第1セクション

- ❖ **ジョン・コンミー師①**
- ❖ ディグナム①
- ❖ スウォン修道会士①
- ❖ カニンガム①
- ❖ ウルジー①
- ❖ ディヴィッド・シーヒー下院議員①
- ❖ ディヴィッド・シーヒー下院議員の奥方①
- ❖ バーナード・ヴォーン神父①
- ❖ ピラト①
- ❖ ジャック・ソーン①
- ❖ ジェラ・ギャラハー①
- ❖ ブラニー・ライナム①
- ❖ 管区長①
- ❖ **ダンス教習会教授デニス・J・マギニ①**
- ❖ レディ・マクスウェル①
- ❖ マッキネス夫人①：質屋の女主人
- ❖ スコットランド女王メアリー様①
- ❖ 文学士T・R・グリーン師①
- ❖ クリスチャンブラザーズの小学生の一団①
- ❖ かの散財家の貴族①
- ❖ ニューヨークの沈没事故の被害者①
- ❖ 二人の職無し男①
- ❖ H・J・オニール葬儀店の前のコーナー・ケラハー①
- ❖ 巡回中の巡査① (=C57)
- ❖ 泥炭解の麦わら帽の船頭①
- ❖ 泥炭解を曳く馬①
- ❖ ニコラス・ダドリ師①=
- ❖ 市街行き電車のなかの車内の乗客（眼鏡の紳士と、その妻とコンミーが考える女性／ぎこちなく座る老人／アンズリー橋で降りる一人の老女）①
- ❖ ユージーン・ストラットン①
- ❖ ベルギー人のイエズス会士①
- ❖ トールボット・ド・マラハイド卿①
- ❖ モルズワース卿の娘メアリー・ロッチフォート①
- ❖ ベルヴェデア卿①
- ❖ ベルヴェデア卿の弟①
- ❖ 顔赤らめた若い男①
- ❖ 若い女①



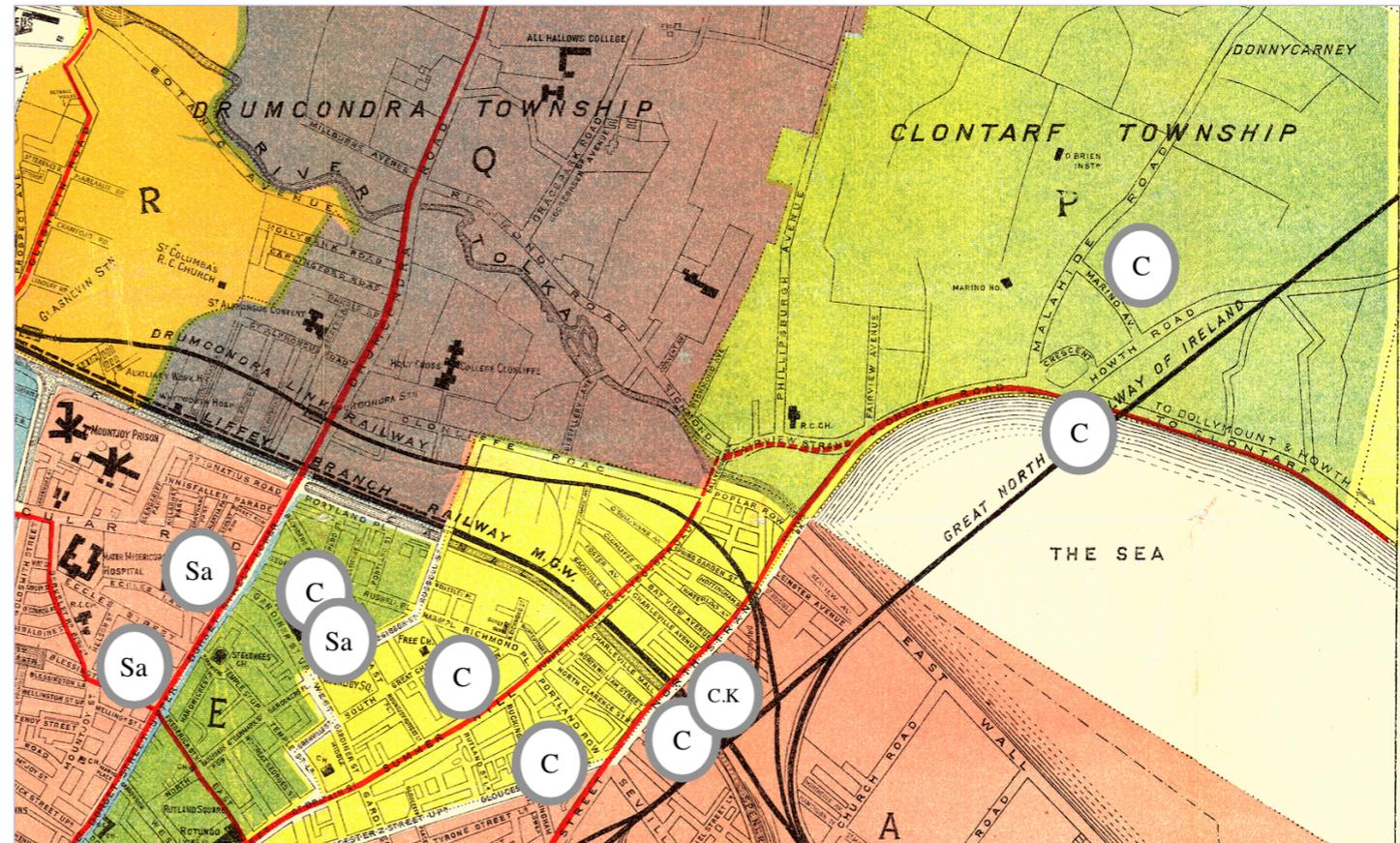
「さまよえる岩」の登場人物案内：第2セクション

- ❖ コーニー・ケラハー②
- ❖ ジョン・コンミー神父①②
- ❖ 巡査57C①②
- ❖ おおらかな白い腕②



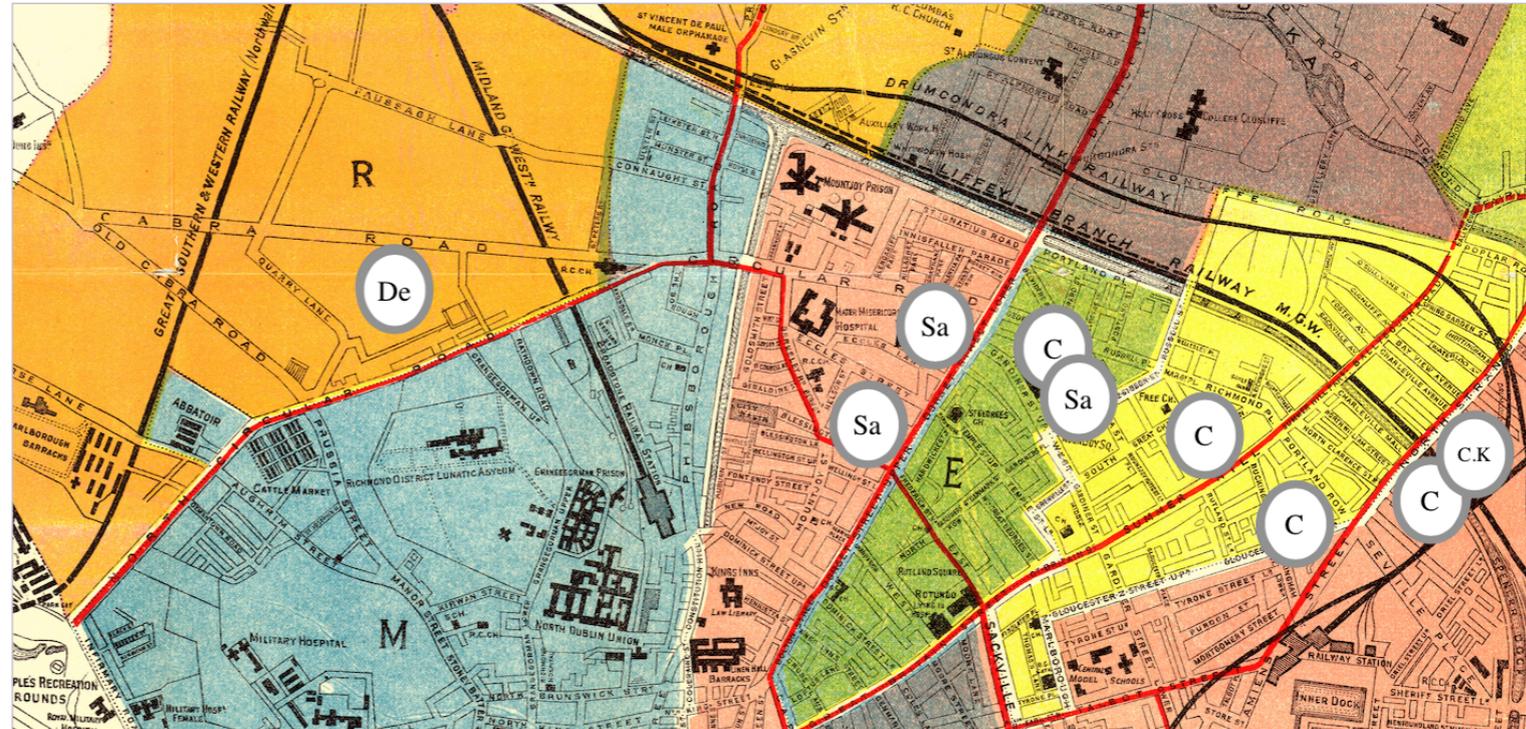
「さまよえる岩」の登場人物案内：第3セクション

- ❖ 一歩足の水兵／「吟遊詩人」①③
- ❖ ラーリー・オローク③
- ❖ ケイティ・デッダラス③
- ❖ ブーディ・デッダラス③
- ❖ **J・J・オモロイ③**
- ❖ **ランバート氏③**
- ❖ 裸足の腕白小僧③
- ❖ おおらかな腕の女の手②③



「さまよえる岩」の登場人物案内：第4セクション

- ❖ ケイティ・デッドラス③④
- ❖ ブーディ・デッドラス③④
- ❖ コンミー神父①②④
- ❖ マギー・デッドラス④
- ❖ ディリー・デッドラス④
- ❖ 父(サイモン・デッドラス)④
- ❖ エリヤ④
- ❖ 丸められて捨てられたビラ④

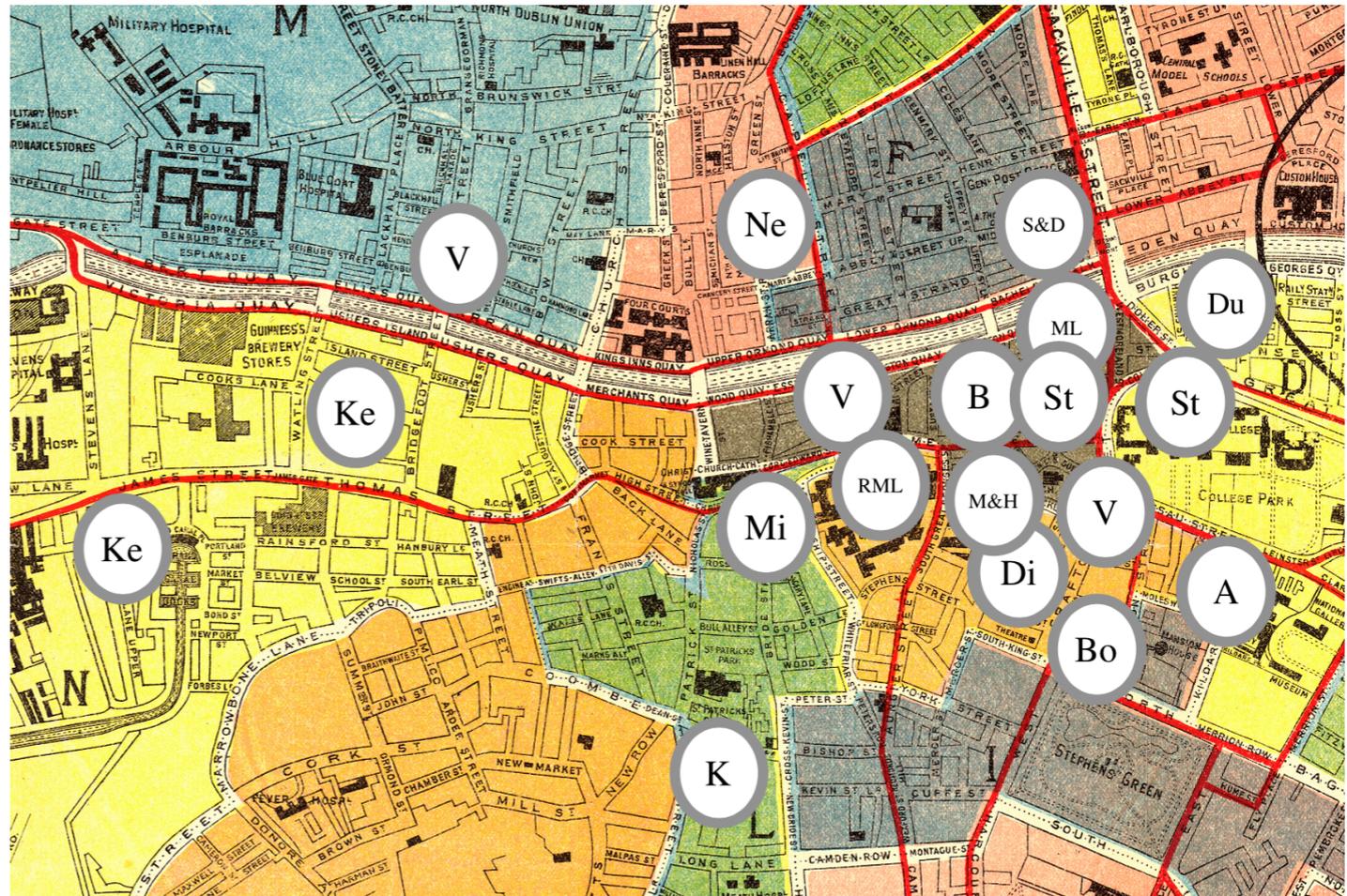


- ❖ デダラス家の所在地について

“The other indeterminate location is of the Dedaluses: “Katey and Boody Dedalus shoved in the door of the closest steaming kitchen” (U10.258-59). There is no clue as to the kitchen’s site except that the Dedalus sisters were seen, in the previous section but some considerable time before, in Eccles street (U10.229-33). Again Clive Hart a location with an asterisk of inference: “*7 St plausible provides Peter’s Terrace, Cabra, the address of the Joyce family in June, 1904. Katey and Boody Dedalus have walked home from school via Eccles Street... Berkeley Road, North Circular road, Cabra Road” (TG 28). (Flitz Senn, “On Not Finding Places,” JJQ, Vol. 29, No. 2 (Winter, 1992), p. 398)

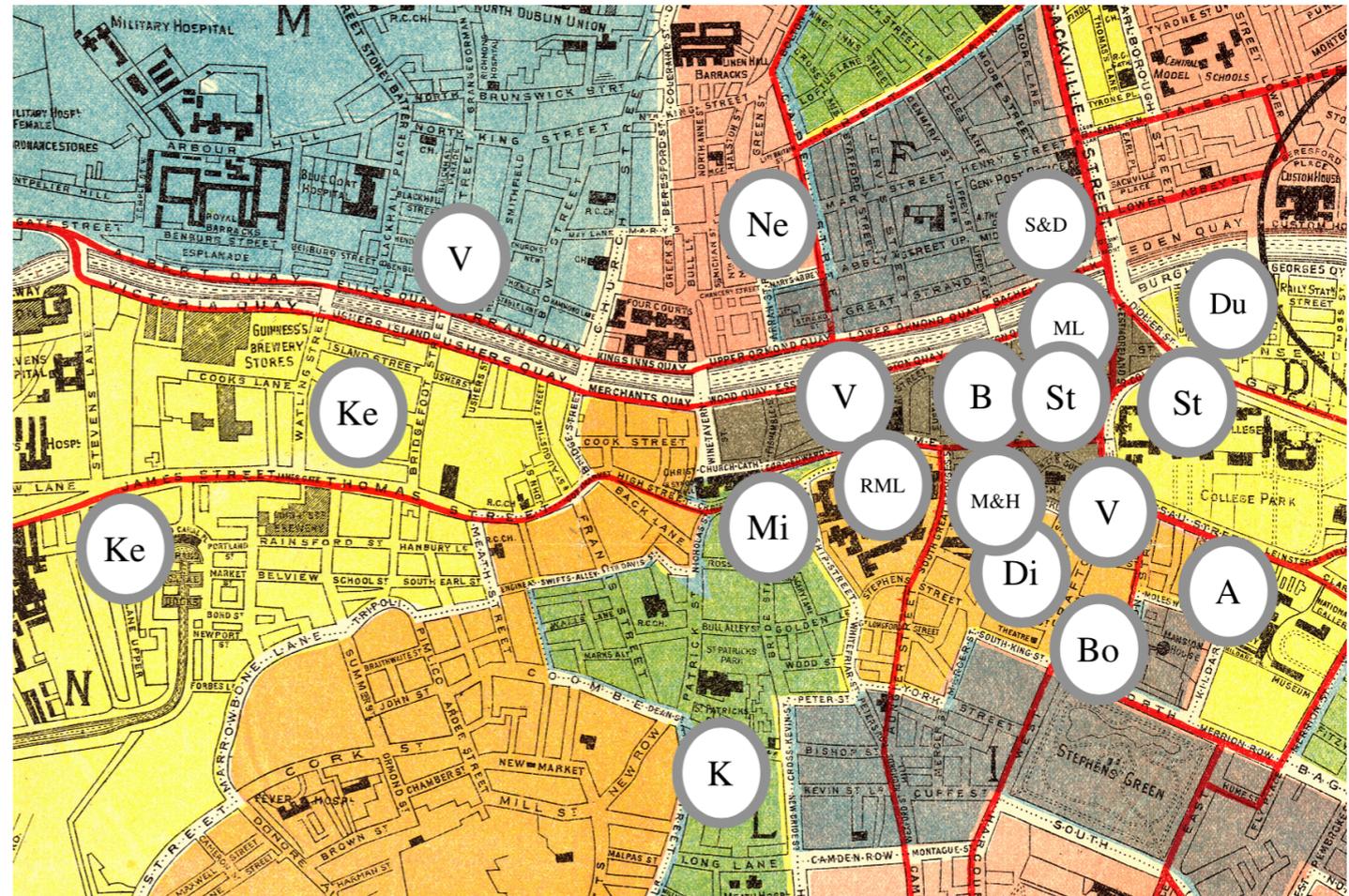
「さまよえる岩」の登場人物案内：第5セクション

- ❖ ソートンのブロンドの売り子⑤
- ❖ ブレイゼズ・ボイラン⑤
- ❖ H.E.L.Y'S⑤*
- ❖ 黒背中の人影⑤



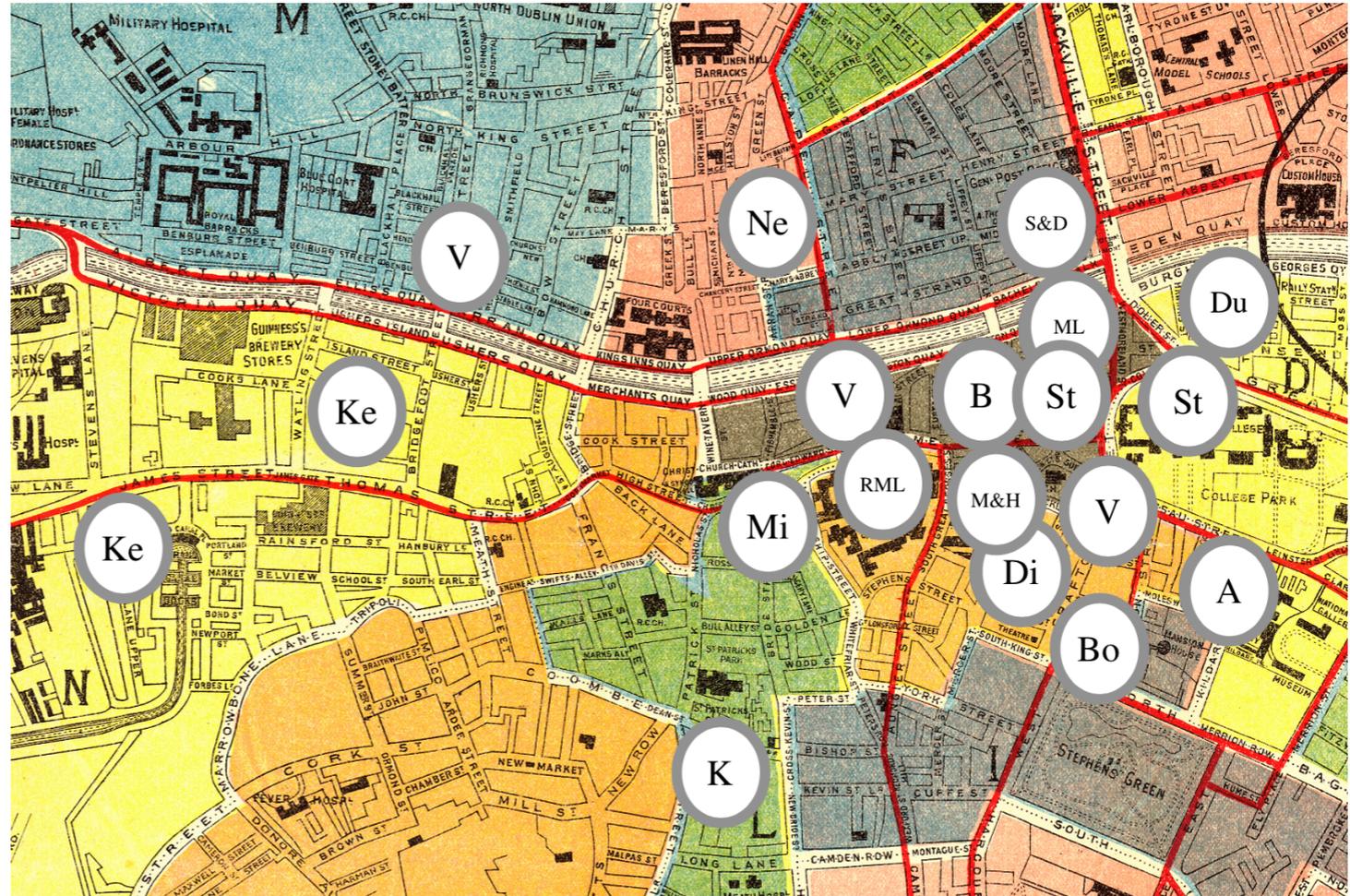
「さまよえる岩」の登場人物案内：第6セクション

- ❖ アルミダーノ・アルティフォーニ⑥
- ❖ スティーヴン・デッドラス⑥
- ❖ ゴールドスミス⑥
- ❖ 観光客を乗せた馬車⑥
- ❖ アイルランド銀行正面口の鳩の群⑥
- ❖ ハイランド兵士の軍楽隊⑥



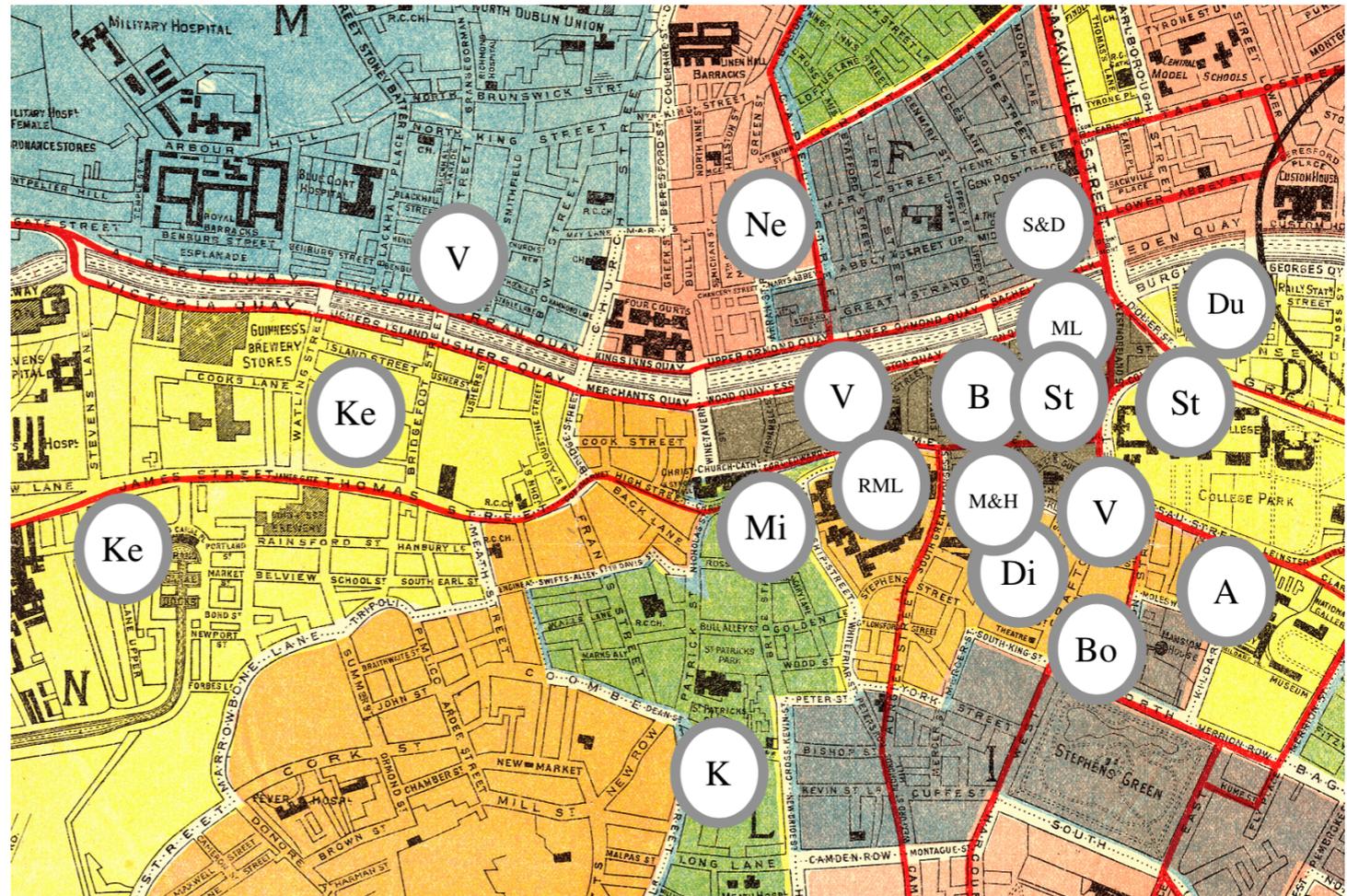
「さまよえる岩」の登場人物案内：第7セクション

- ❖ **ダン嬢**⑦
- ❖ **5人のサンドイッチマン**
- ❖ 小間使女優マリー・ケンダル⑦
- ❖ あの男⑦
- ❖ あの仕立て屋⑦
- ❖ スージー・ネイグル⑦
- ❖ ボイラン⑤⑦
- ❖ レネハン⑦



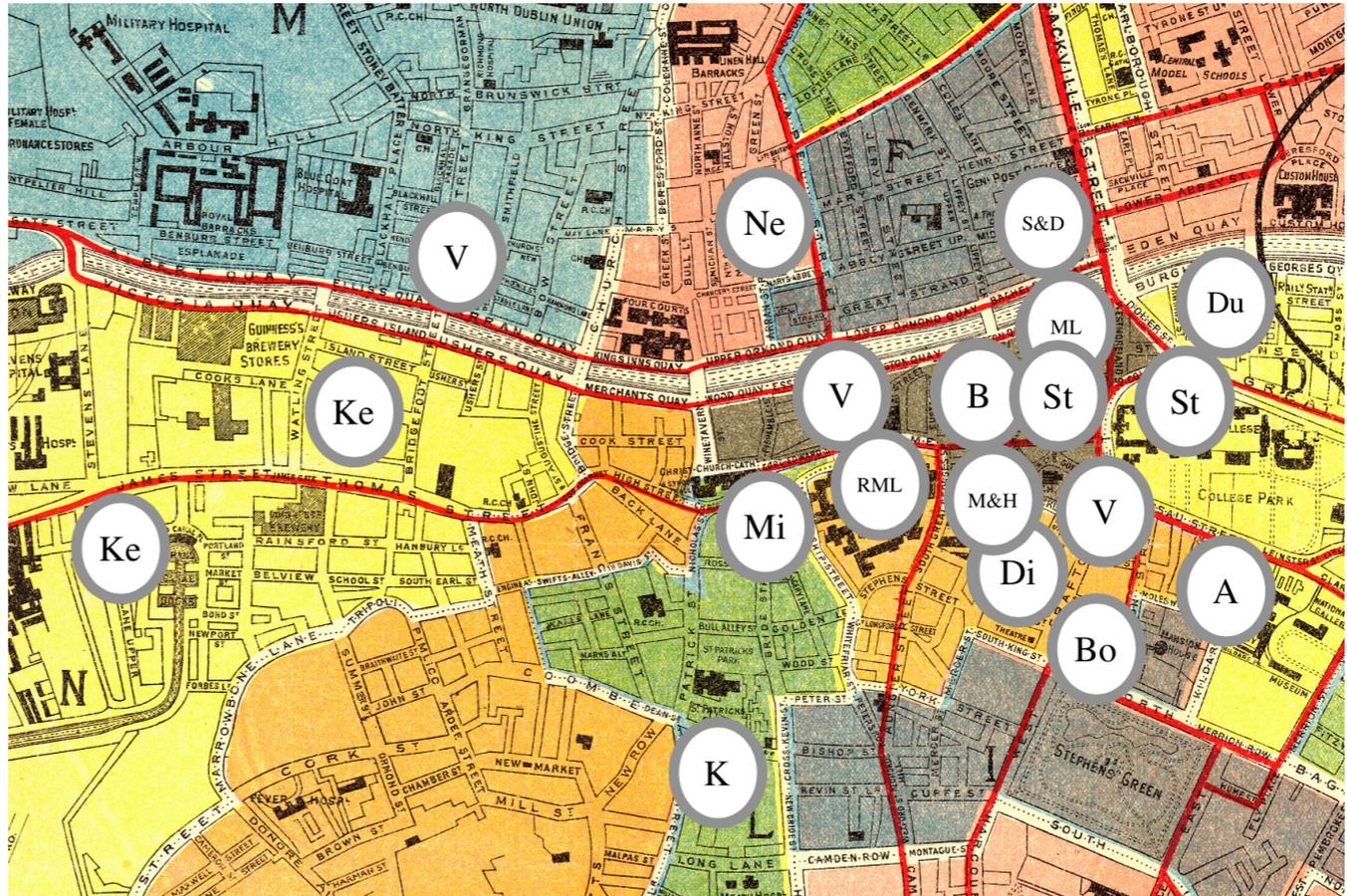
「さまよえる岩」の登場人物案内：第8セクション

- ❖ ネット・ランバート⑧：副大法官チャタートンの甥で穀物商店勤務。
- ❖ J・J・オモロイ⑧：零落した法廷弁護士、第7挿話でクロフォードに無心しようとして断られている。
- ❖ 聖職者ヒュー・C・ラヴ士師⑧
- ❖ 馬面 (a long face)
- ❖ ウェックスフォード州オコナー運送の荷車引き⑧
- ❖ 若い女①⑧
- ❖ 大伯爵大フィッツジェラルド⑧
- ❖ 死んじゃったあの… (ディグナム) ①⑧



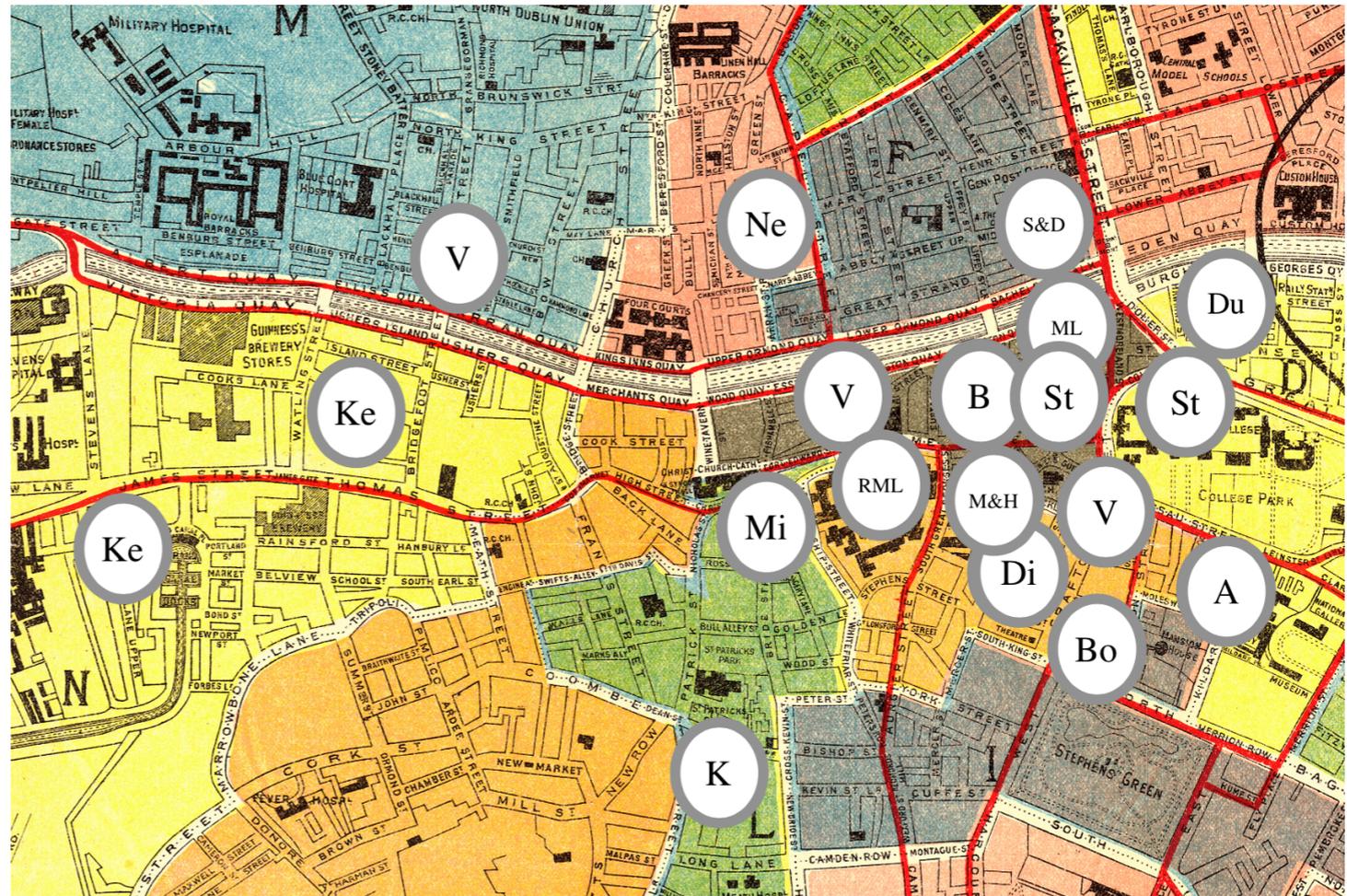
「さまよえる岩」の登場人物案内：第9セクション

- ❖ **トム・ロッチフォード**⑨
- ❖ **リッチー・グールディング**⑨
- ❖ 初老女⑨
- ❖ **おおせ鼻フリン**⑨
- ❖ やつ (ボイラン) ⑤⑦⑨
- ❖ **レネハン**⑦⑨
- ❖ **マッコイ**⑨
- ❖ マリー・ケンダル⑦⑨
- ❖ ライナム⑨
- ❖ マーカス・ターシャス・モーゼス⑨
- ❖ O・マッドゥン⑨
- ❖ 総督⑨
- ❖ バンタム・ライアンズ⑨
- ❖ 黒背中の人影⑤⑨
- ❖ リフィー通りの爺さん⑨
- ❖ **パトリック・アロウィシャス・ディグナム君**⑨
- ❖ ヴァル・ディロン⑨
- ❖ バーテル・ダーシー⑨
- ❖ ベンジャミン・ドラード⑨
- ❖ ブルーム⑤⑨
- ❖ ブルームの女房⑨
- ❖ クリス・カリナン⑨
- ❖ 馬追⑨



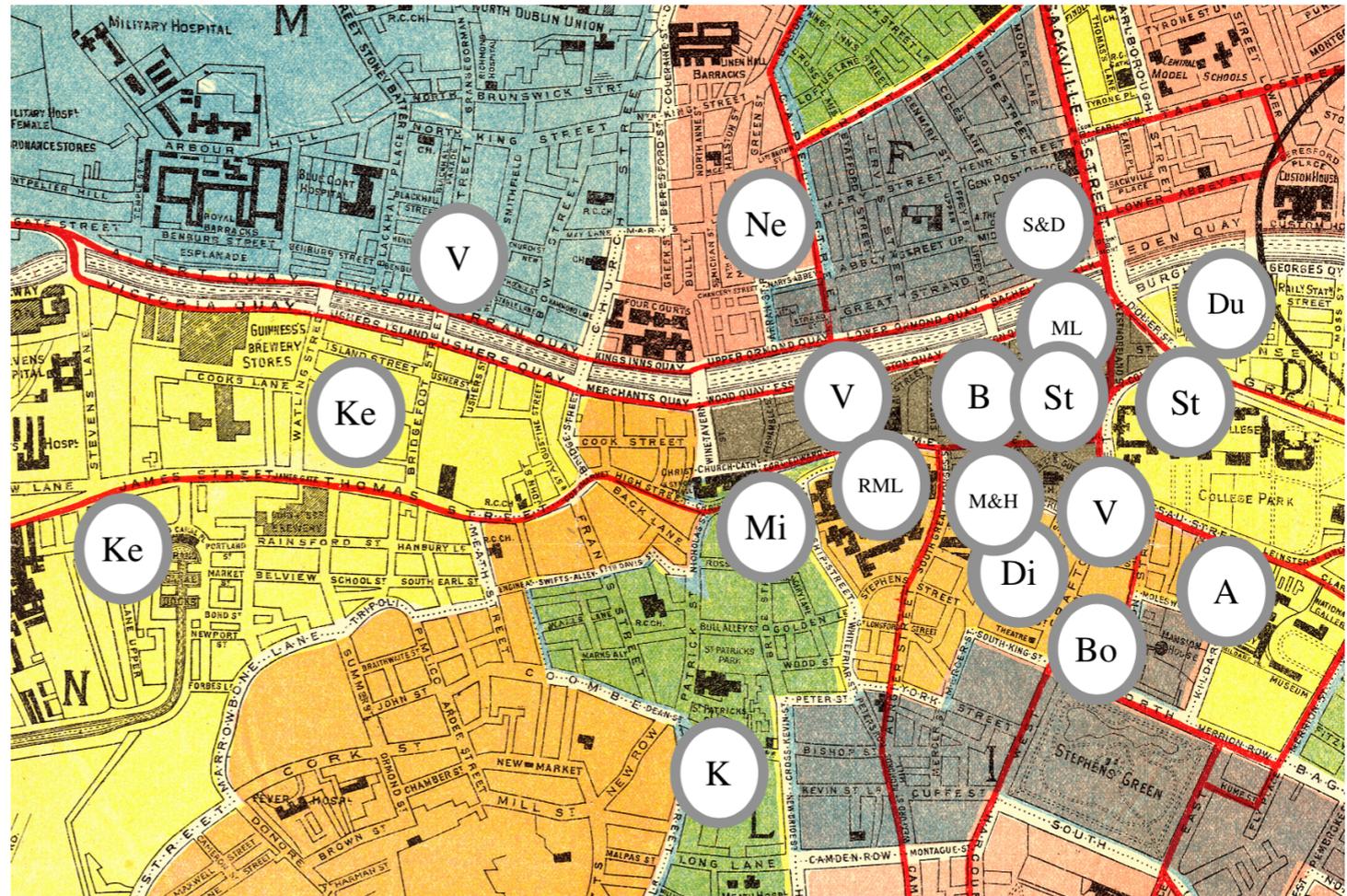
「さまよえる岩」の登場人物案内：第10セクション

- ❖ ブルーム⑤⑨⑩
- ❖ ピュアフォイの奥方⑩
- ❖ 露天商の本屋⑩
- ❖ **ダンス教習会教師デニス・J・マギニ①⑩**
- ❖ 彼女(=モリー)⑩⑨
- ❖ **もはや若くない女⑩ (⇔若い女?)**
- ❖ ポッタートン⑩
- ❖ 原告レディー・ケアンズ号船主⑩
- ❖ 原告ハーヴィ⑩



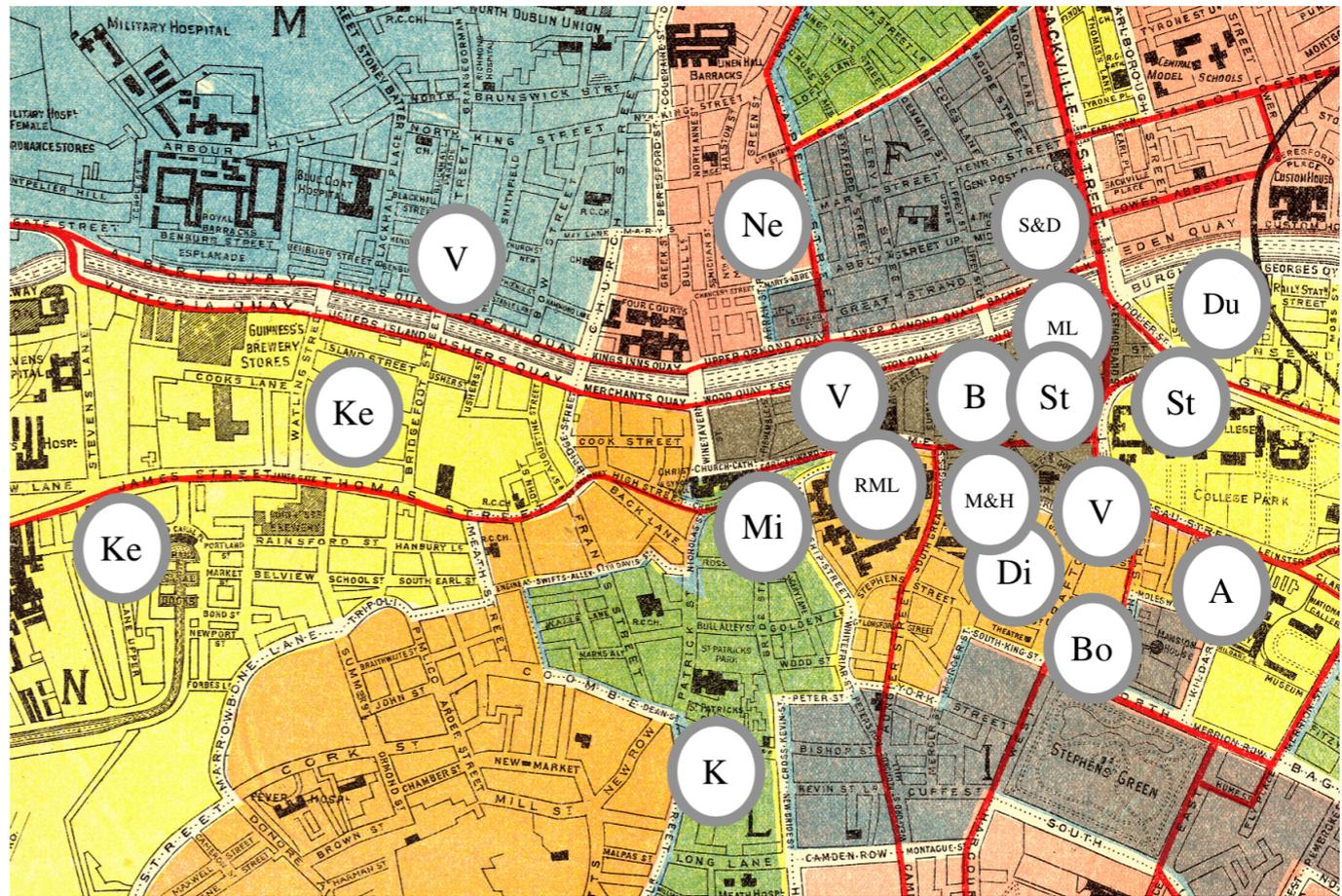
「さまよえる岩」の登場人物案内：第11セクション

- ❖ 従僕 (4) ⑪
- ❖ ディリー・デッドラス (4) ⑪
- ❖ 競売人 ⑪
- ❖ 半マイル自転車競走の選手たち
(J・A・ジャクソン、W・E・ワイリー、A・マンロウ、H・T・ガーン) ⑪
- ❖ サイモン・デッドラス氏 (4) ⑪
- ❖ ジョン叔父 ⑪
- ❖ カーナン氏 ⑪
- ❖ ジャック・パワー ⑪
- ❖ 尼さんモニカ ⑪
- ❖ 総督 (9) ⑪
- ❖ 敬礼をする巡査たち ⑪



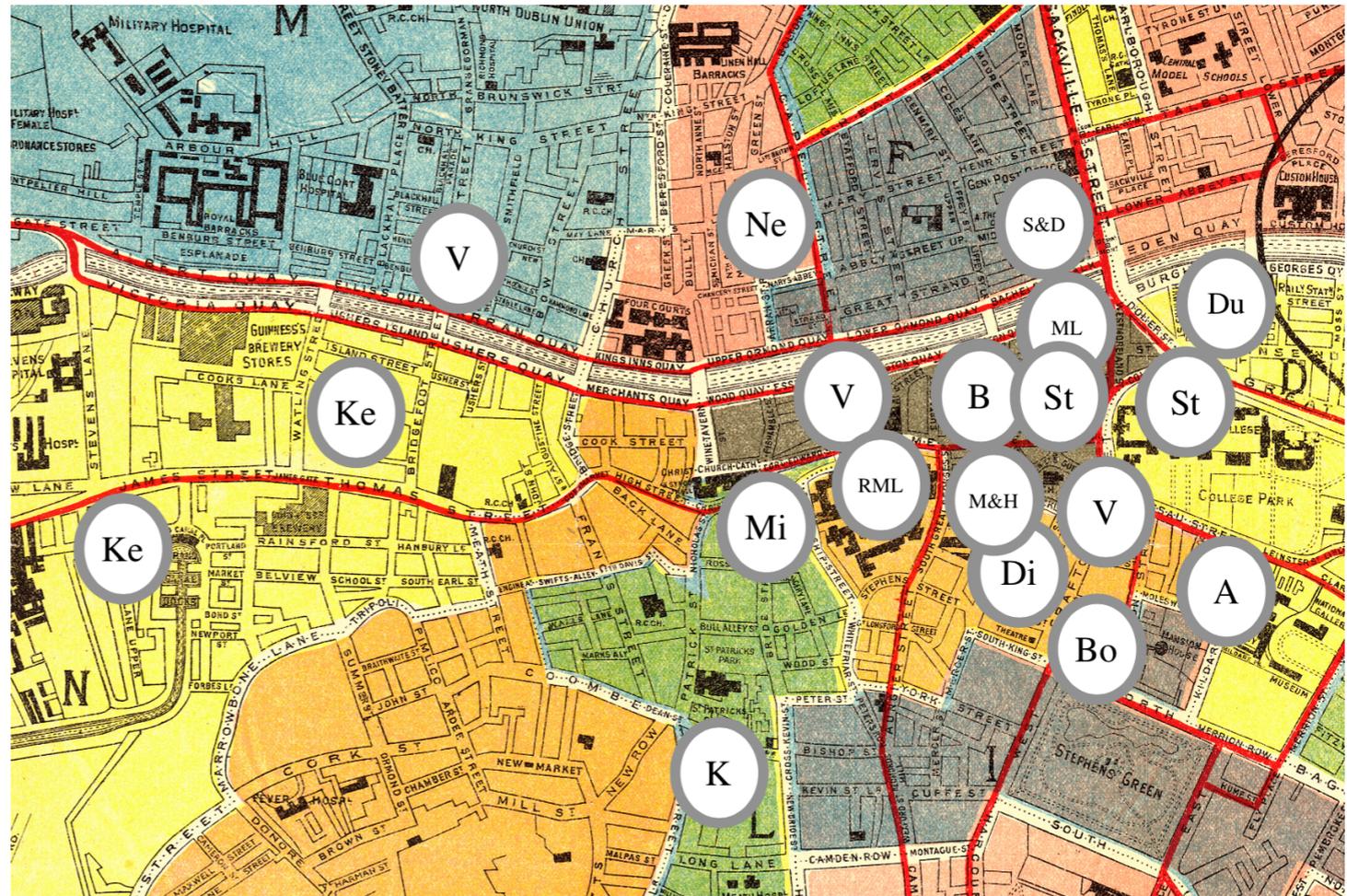
「さまよえる岩」の登場人物案内：第12セクション

- ❖ カーナン氏⑩⑫
- ❖ ブルブルック・ロバートソン⑫
- ❖ シャックルトン⑫
- ❖ ジェネラル・スロウカム号の死傷者⑫
- ❖ クリミンズ⑫
- ❖ サイモン・デッダラス④⑩⑫
- ❖ おっさんカウリー⑫
- ❖ ドーソン通りのスコット⑫
- ❖ ニアリー⑫
- ❖ ヒベルニア銀行頭取ジョン・マリガン⑫
- ❖ ビラ④⑫
- ❖ エリヤ④⑫
- ❖ ネット・ランバートの弟サム⑫
- ❖ エメット⑫
- ❖ ディグナム①⑧⑫
- ❖ デニス・ブリー⑫
- ❖ ジョン・ヘンリー・メントン⑫
- ❖ デニス・ブリーの妻⑫
- ❖ ネット・ランバート⑧⑫
- ❖ エドワード・フィッツジェラルド卿⑫
- ❖ サー少佐⑫
- ❖ ベン・ドラード⑨⑫
- ❖ 騎馬行列の先導従者たち⑫
- ❖ フロックコートとクリーム色の日傘⑫
- ❖ 総督閣下⑨⑩⑫



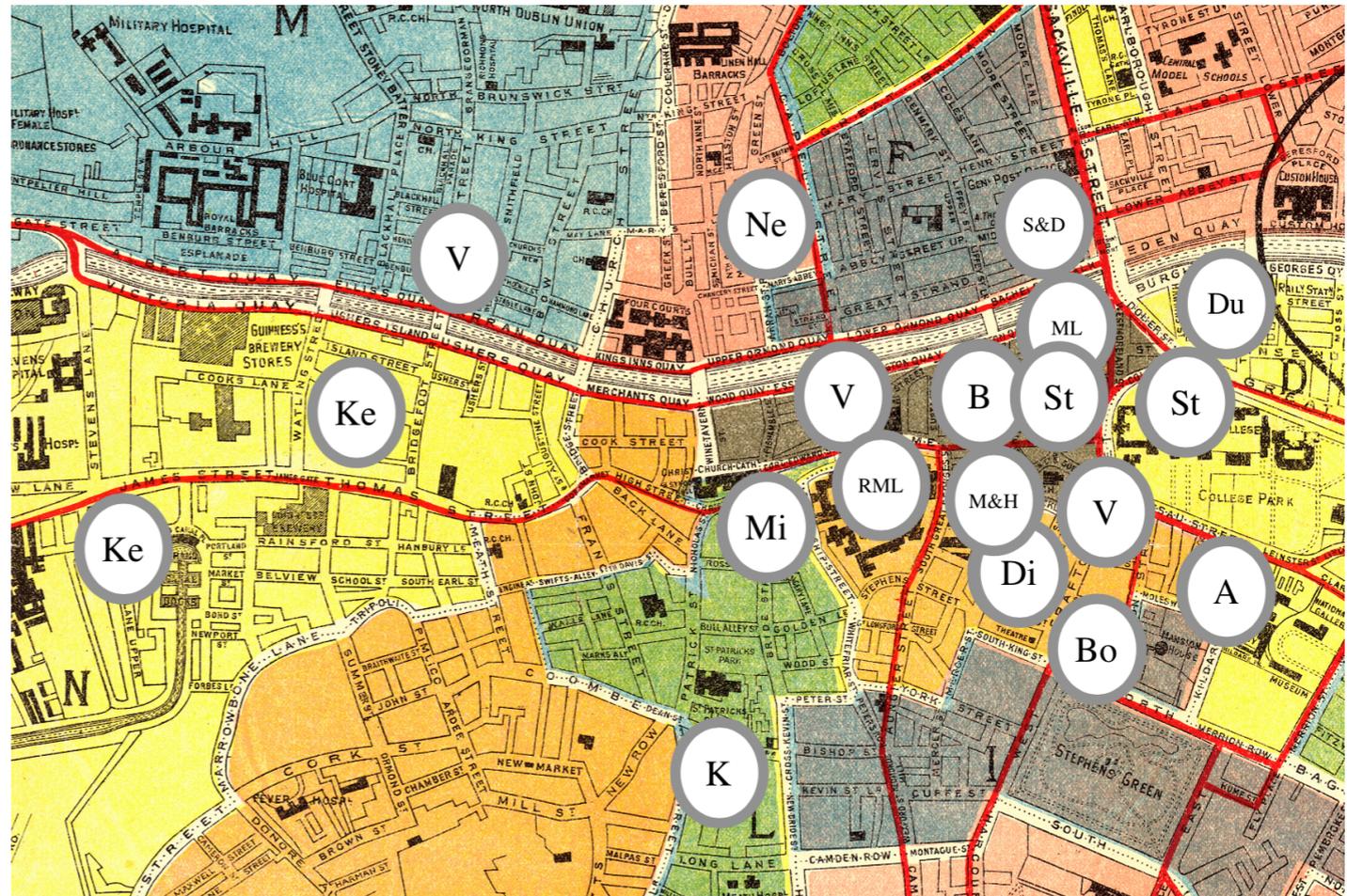
「さまよえる岩」の登場人物案内：第13セクション

- ❖ スティーヴン・デッダラス⑬
- ❖ 宝石細工師老ラッセル⑬
- ❖ 二人の老女⑬
- ❖ ヒーナン⑬
- ❖ セイヤーズ⑬
- ❖ 古本屋の露天商⑬
- ❖ **コンミー神父①②④⑬**
- ❖ ピーター・サランカ大修道院長⑬
- ❖ **ディリー・デッダラス④⑪⑬**
- ❖ マギー・デッダラス④⑬



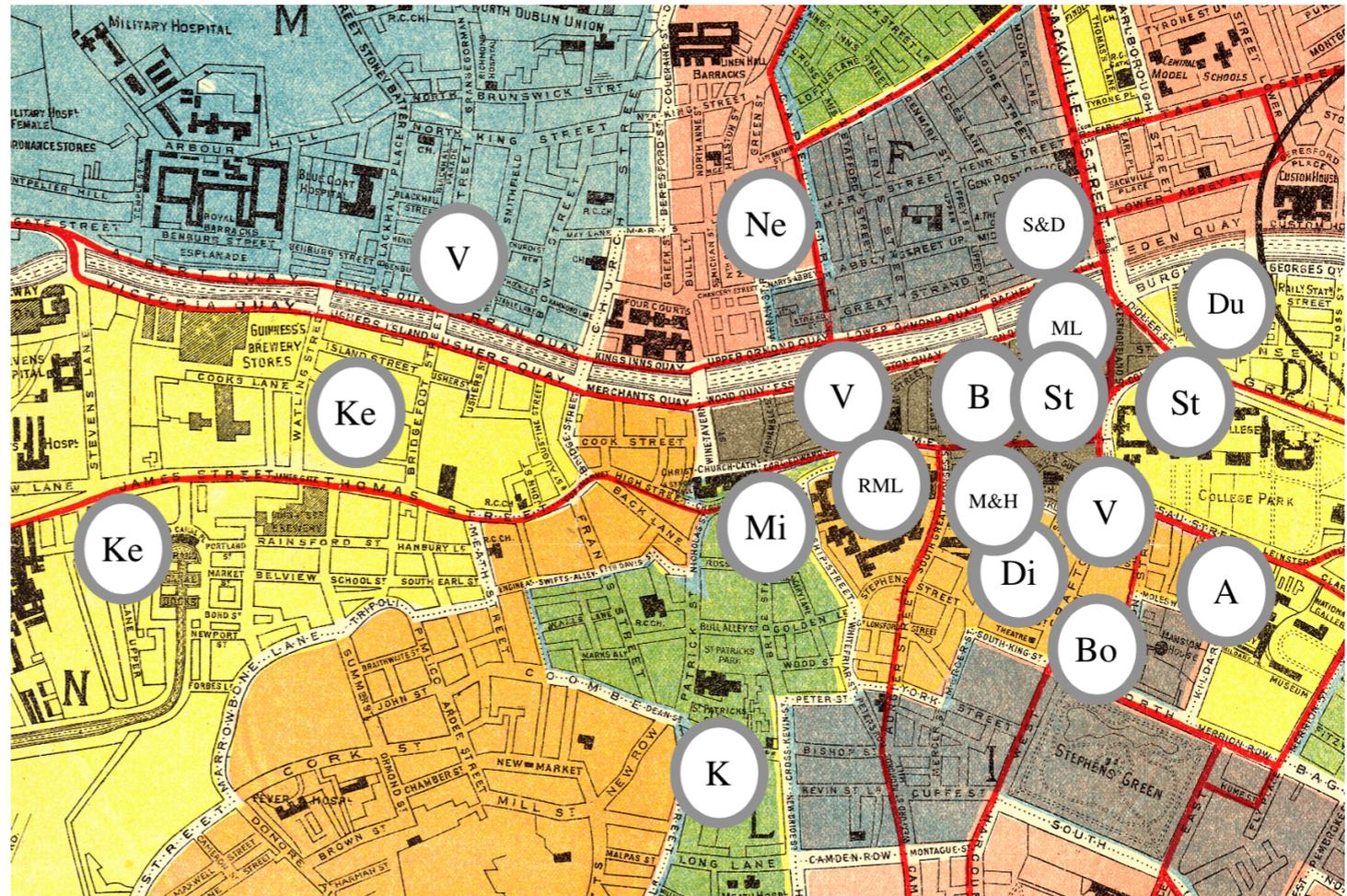
「さまよえる岩」の登場人物案内：第14セクション

- ❖ サイモン・デッダラス④⑪⑫⑭
- ❖ おっさんカウリー⑭：ロバート・カウリー（愛称ボブ, “Father Cowley”）
- ❖ 高利貸しルーベン（J・ドッド）⑭
- ❖ ベン・ドラード⑨⑫⑭
- ❖ 長棹ジョン⑭
- ❖ 【?】こんな代物を仕立てやがったユダヤ人⑭
- ❖ キャッセル・ボイル・オコナー・フィッツモリス・ティズダル・フレレル⑭
- ❖ ヒュー・C・ラヴ師⑧⑭
- ❖ ジェラルディーン⑭
- ❖ 副執行官⑭
- ❖ ロックが執達吏にした新顔の美男⑭
- ❖ ロベンギュラとリンチホーン⑭
- ❖ ジョン・ヘンリー・メントン⑫⑭
- ❖ バラバのやつ⑭



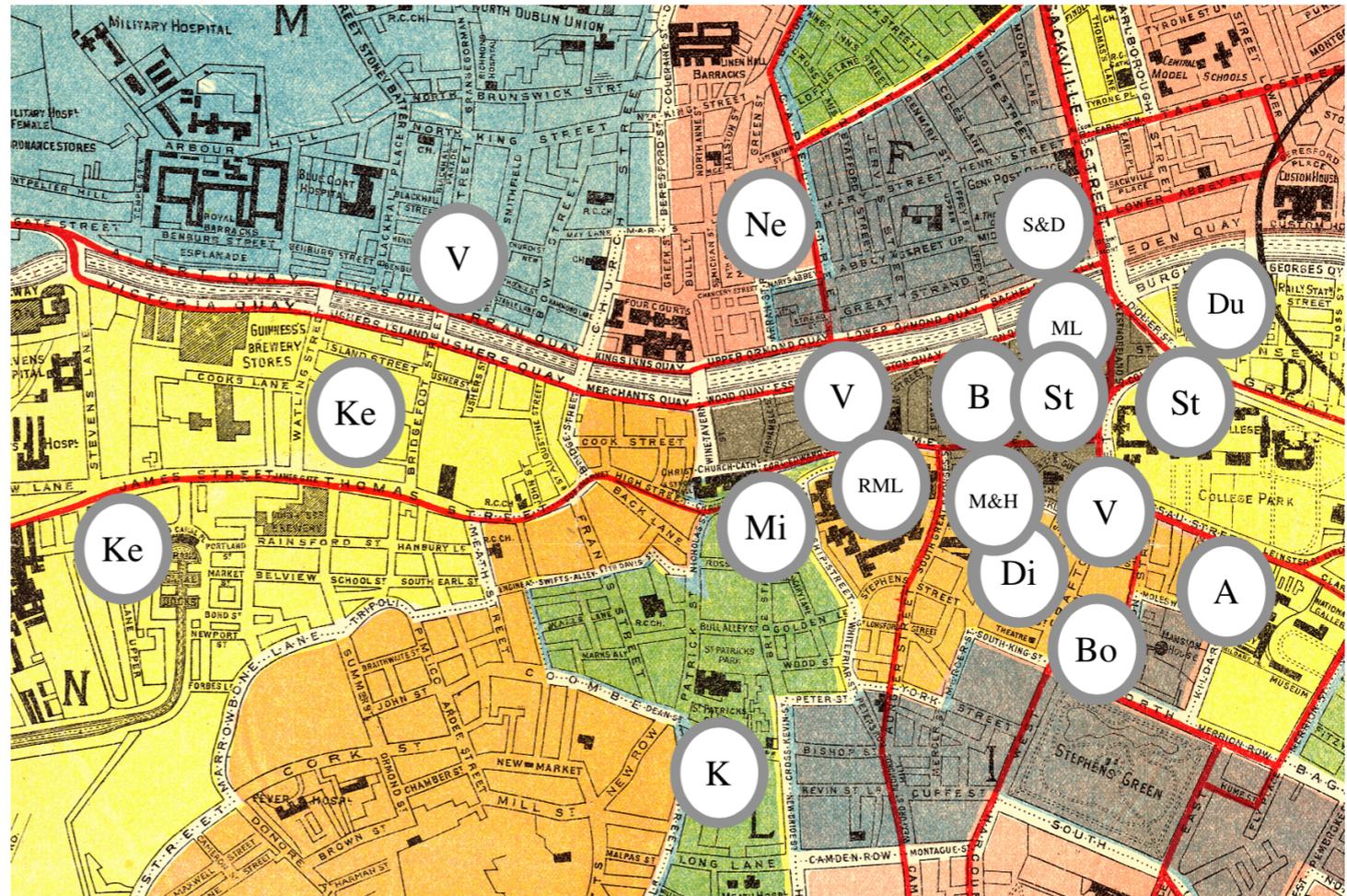
「さまよえる岩」の登場人物案内：第15セクション

- ❖ 息子（ディグナム君）⑨⑮
- ❖ マーティン・カニングム⑮
- ❖ 待っていた御者⑮
- ❖ ケネディ嬢とドゥース嬢⑮
- ❖ コンミー神父⑮
- ❖ パワー氏⑮
- ❖ ボイド⑮
- ❖ ジョン・ワイズ・ノーラン⑮
- ❖ 市議員ナネッティ⑮
- ❖ 参事会員カウリー⑮
- ❖ 市会委員エイブラハム・ライアン⑮
- ❖ ブルーム（「あのユダヤ人」）⑮
- ❖ ジミー・ヘンリー⑮
- ❖ ジャックムーニーの弟⑮
- ❖ ジェイムズ・キャヴァナー⑮
- ❖ 長棹ジョン・ファニング⑮
- ❖ 副執行官殿⑭⑮
- ❖ 元老院のお歴々⑮
- ❖ 市書記官補⑮
- ❖ 式典長（パーネルの弟）⑮
- ❖ 職杖捧持役のバーロウ⑮
- ❖ 臨時代理ローカン・シャーロック⑮
- ❖ （メントンの事務所の）ディグナム①⑧⑫⑮
- ❖ メントン⑫⑭⑮
- ❖ 騎馬従者たち⑮
- ❖ アイルランド総督閣下⑨⑪⑫⑮



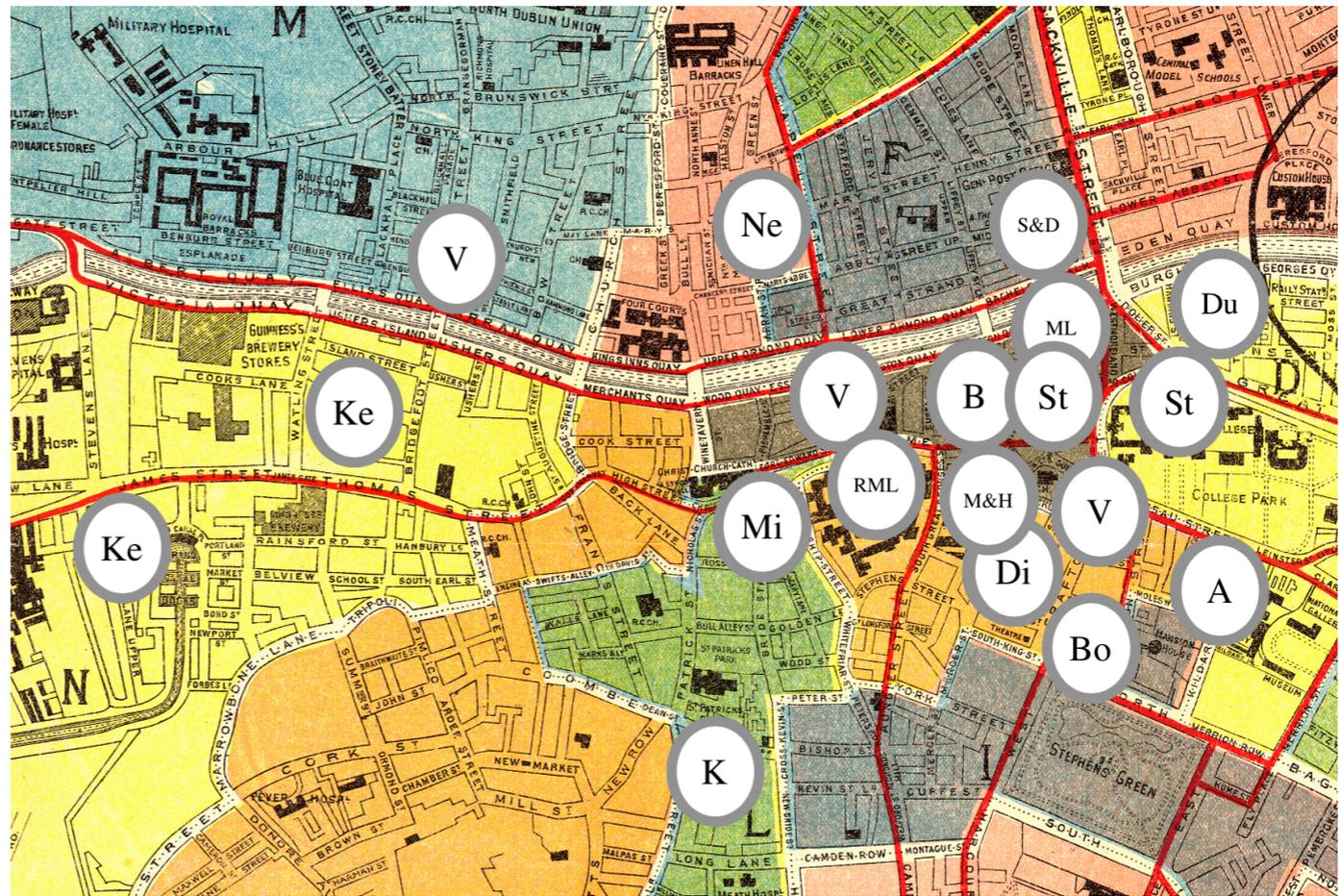
「さまよえる岩」の登場人物案内：第16セクション

- ❖ バック・マリガン⑩
- ❖ ヘインズ⑩
- ❖ パーネルの兄貴ジョン・ハワード (市の式典長) ⑩
- ❖ DBCのウェイトレス⑩
- ❖ 一本足の水兵①③⑩
- ❖ ウィーンのポコルニー教授⑩
- ❖ ビラ⑩
- ❖ エリヤ⑩



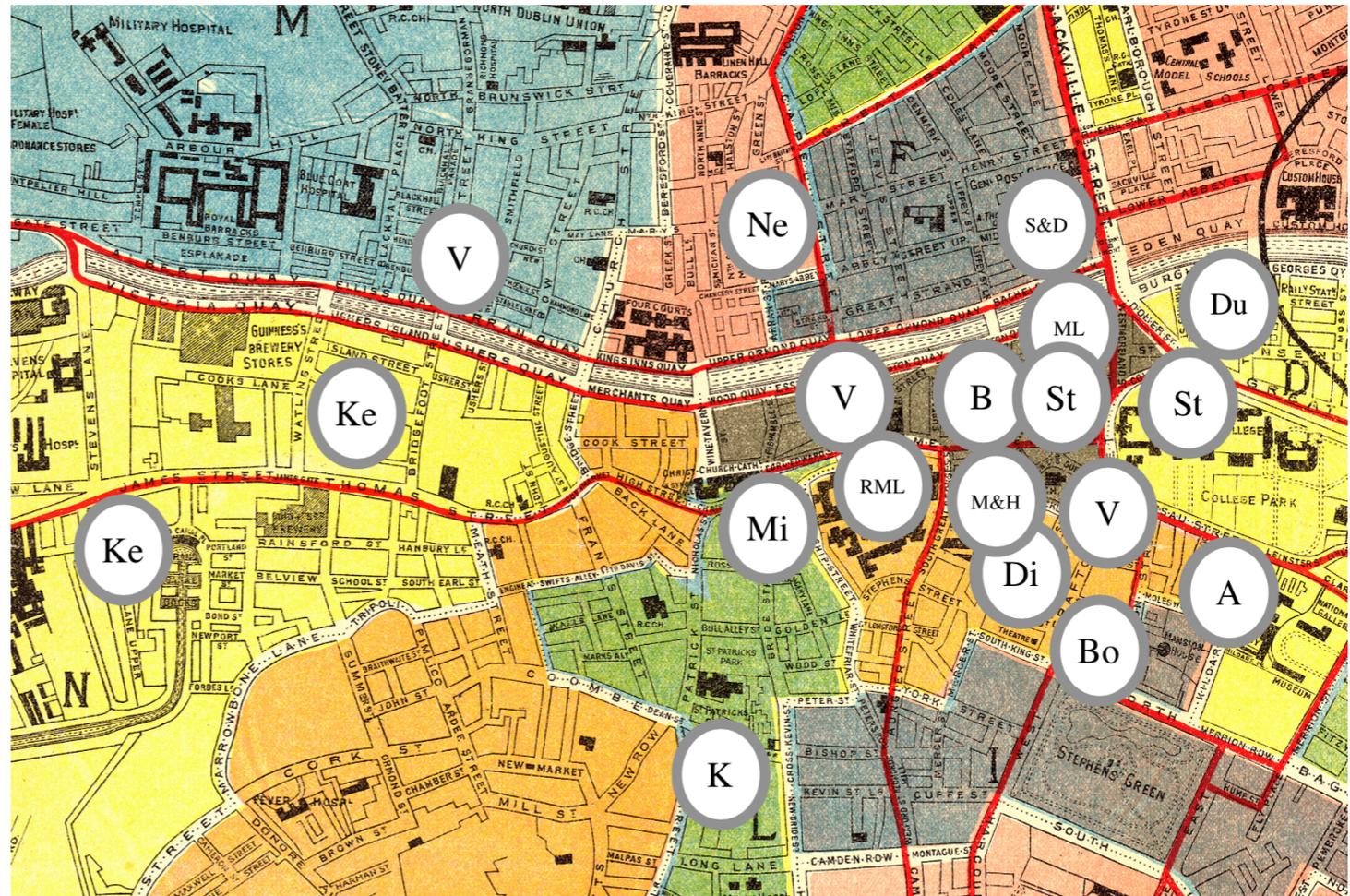
「さまよえる岩」の登場人物案内：第17セクション

- ❖ アルミダーノ・アルティフォニー
⑥⑱
- ❖ キャッシュェル・ボイル・オコナー・
フィッツモリス・ティズダル・ファ
レル⑭⑱
- ❖ ロー・スミス氏⑱
- ❖ 生若い盲人⑱
- ❖ ルイス・ワーナー氏⑱
- ❖ エリヤ⑱
- ❖ ブルーム歯科医⑱



「さまよえる岩」の登場人物案内：第18セクション

- ❖ パトリック・アロウイシャス・ディグナム君⑨⑮⑱
- ❖ 前フェーレンバック現マンガ⑱
- ❖ ストア夫人⑱
- ❖ クウィグリー夫人⑱
- ❖ マクダウェル夫人⑱
- ❖ バーニー叔父さん⑱
- ❖ タニー⑱
- ❖ 二人の拳闘選手⑱
- ❖ マイラ・キーオウ⑱
- ❖ ベネット特務曹長⑱
- ❖ (ディグナム君の) 母さん⑱
- ❖ マリー・ケンダル⑦⑨⑱
- ❖ 親父/父さん/パパ/故ディグナム氏①⑧⑫⑮⑱
- ❖ フィッツシモンズ⑱
- ❖ 真っ赤な花をくわえて洒落た靴をはいている伊達男⑱ =
- ❖ (その伊達男に話しかけている) 酔っ払い⑱
- ❖ 生徒たち⑱
- ❖ コンロイ神父⑱



「さまよえる岩」のなかの貧しい人々

- ❖ 二人の職無しの男①
- ❖ 「皆、薄汚れた帽子を取って挨拶した。コンミー神父は一度ならず温和に挨拶を返す。クリスチャン・ブラザーズの男の子たち。」 (U-Y 10.376)
- ❖ 「主が沼地に泥炭を造り給うたおかげで人はそれぞれ掘り出して町や村へ運び貧しき人々の家で暖炉火となる。」 (U-Y 10.377) ①
- ❖ 一歩足の水兵③
- ❖ J・J・オモロイ③⑧
- ❖ 裸足の腕白小僧③
- ❖ ケイティ・デッダラス③④
- ❖ ブーディ・デッダラス③④
- ❖ マギー・デッダラス④
- ❖ ディリー・デッダラス④
- ❖ スティーヴン・デッダラス⑥
- ❖ サイモン・デッダラス④⑪⑫⑭—「オコナル通りの溝に洗いざらい当たってみたさ。今度はこの溝に当たってみよう。」 (U-Y 10.404)
- ❖ おっさんカウリー⑭
- ❖ 5人のサンドイッチマン⑤⑦⑱

「さまよえる岩」のなかの貧しい人々

- ❖ 二人の職無しの男①
- ❖ 「皆、薄汚れた帽子を取って挨拶した。コンミー神父は一度ならず温和に挨拶を返す。クリスチャン・ブラザーズの男の子たち。」 (U-Y 10.376)
- ❖ 「主が沼地に泥炭を造り給うたおかげで人はそれぞれ掘り出して町や村へ運び貧しき人々の家で暖炉火となる」 (U-Y 10.377) ①
- ❖ 一歩足の水兵③
- ❖ J・J・オモロイ③⑧
- ❖ 裸足の腕白小僧③
- ❖ ケイティ・デッダラス③④
- ❖ ブーディ・デッダラス③④
- ❖ マギー・デッダラス④
- ❖ ディリー・デッダラス④
- ❖ スティーヴン・デッダラス⑥
- ❖ サイモン・デッダラス④⑪⑫⑭—「オコンル通りの溝に洗いざらい当たってみたさ。今度はこの溝に当たってみよう。」 (U-Y 10.404)
- ❖ おっさんカウリー⑭
- ❖ 5人のサンドイッチマン⑤⑦⑱

An Old Woman of the Roads, by Pádraic Colum

O, to have a little house!
To own the hearth and stool and all!
The heaped up sods upon the fire,
The pile of turf against the wall!

To have a clock with weights and chains
And pendulum swinging up and down!
A dresser filled with shining delph,
Speckled and white and blue and brown!

I could be busy all the day
Clearing and sweeping hearth and floor,
And fixing on their shelf again
My white and blue and speckled store!

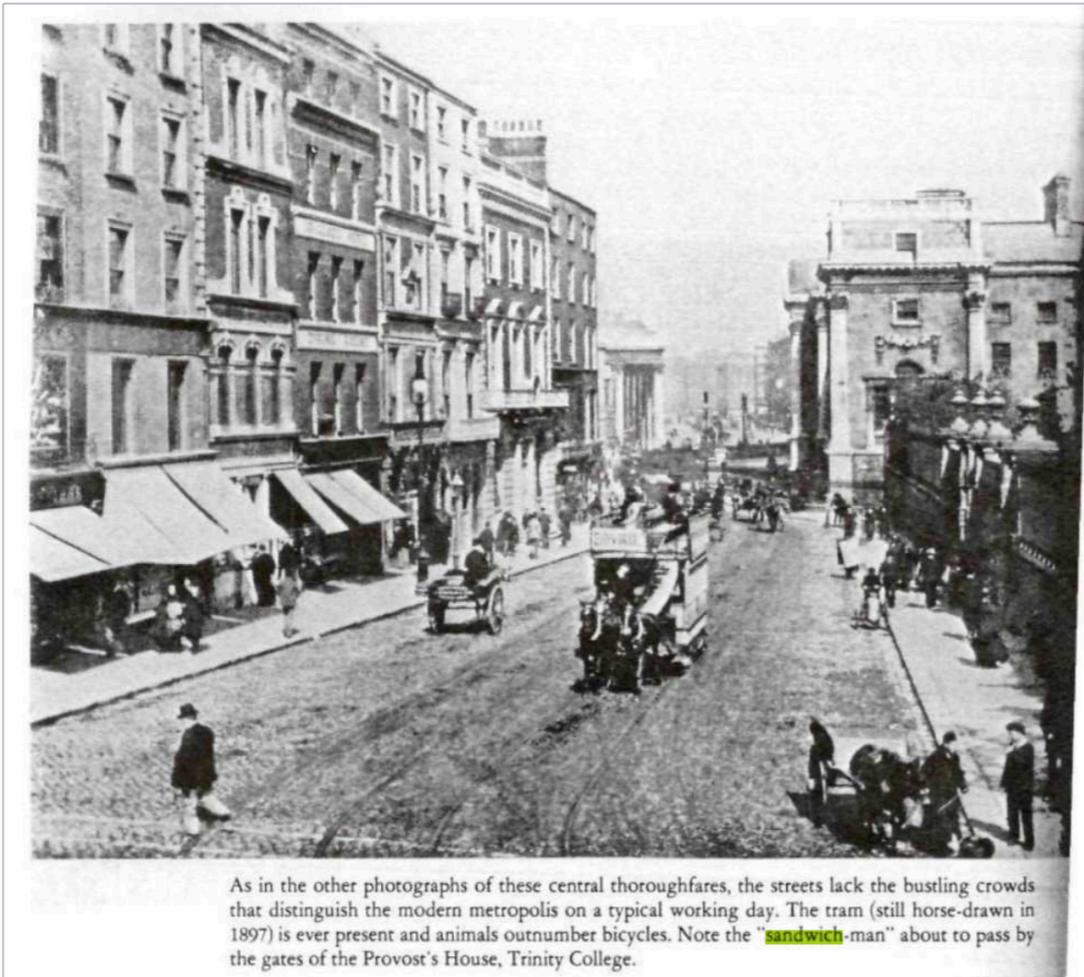
I could be quiet there at night
Beside the fire and by myself,
Sure of a bed and loth to leave
The ticking clock and the shining delph!

Och! but I'm weary of mist and dark,
And roads where there's never a house nor bush,
And tired I am of bog and road,
And the crying wind and the lonesome hush!

And I am praying to God on high,
And I am praying Him night and day,
For a little house - house of my own -
Out of the wind's and the rain's way.

in *Wild Earth: and Other Poems* (1907)

「さまよえる岩」のなかの貧しい人々



“The public symbols of this poverty were the shiftless mass of unemployed, hangers-on at the fruit, fish, and clothes markets lucky to earn a shilling or two each morning as porters, the army of “sandwich men” trooping the city in ragged attire, barefooted street urchins, youthful street traders, the “Molly Malones” who gather cockles in Dublin Bay in the morning to sell as street corners for the night’s lodgings, the street musician, idlers and corner boys as well as the ubiquitous beggar noted for generations for his pertinacity.” (*Dear Dirty Dublin: A City in Distress, 1899-1916*, Joseph V. O’Brien, 162)

次回：第11回読書会について

次回の第11回読書会（第11挿話：セイレーン）は4月25日（日）にオンラインで実施します。具体的な日程と予約開始日はtwitter（@YMINAMITANI）とStephens Workshopのホームページでお知らせします。後ほどアンケートフォームを別途送付しますので、今回のご感想・改善点について教えていただけると幸いです。

本日はご来場いただき、ありがとうございました。
（南谷・小林・平繁）

